

# 日本消防

日  
本  
消  
防

第  
三  
号

公  
益  
財  
団  
法  
人  
日  
本  
消  
防  
協  
会



● 第15回消防団幹部候補中央特別研修

3  
2016

□ 絵 平成27年度全国消防団員意見発表会、消防庁消防団等表彰式及び  
消防庁消防団協力事業所表示証交付式 平成28年3月6日(日) 於 ホテルルポール麹町  
第15回消防団幹部候補中央特別研修 於 日本消防会館

巻頭言 我が街の消防団応援の店「消防団員応援制度の推進」…… (公財)香川県消防協会 会長 大西光雄 ……	1
日消の動き 「東日本大震災から5年」…………… (公財)日本消防協会 会長 秋本敏文 ……	3
第15回消防団幹部候補中央特別研修を開催…………… (公財)日本消防協会 ……	4
第68回日本消防協会定例表彰名簿…………… (公財)日本消防協会 ……	6
都道府県消防協会事務局長・共済会支部事務長会議の開催と第25回全国消防操法大会の抽選会を実施 …………… (公財)日本消防協会・(生協)全日本消防人共済会 ……	19
消防団防災学習・災害活動車両の活用事例…………… (公財)日本消防協会 ……	20
東西南北(山梨県)「地域防災力のかなめ」…………… 笛吹市消防団 団長 土屋 淳 ……	24
東西南北(新潟県)「自分たちの地域は、自分たちで守る」…………… 津南町消防団 団長 大島則雄 ……	26
東西南北(島根県)「『神話とたたら』の里」奥出雲 ～住民とともに～…………… 奥出雲町消防団 団長 安部正教 ……	28
シンフォニー(長崎県)「西の最北端 躍動する仲間」…………… 平戸市消防団 部長 小山きよ美 ……	30
全国消防殉職者遺族会理事会を開催…………… 全国消防殉職者遺族会 ……	32
消防育英会定時理事会を開催…………… (公財)消防育英会 ……	33
平成27年度少年消防クラブ指導者交流会を開催…………… 少年消防クラブ活性化推進会議 ……	34
消防団を中核とした地域防災力充実強化大会の実施結果…………… 総務省消防庁地域防災室 ……	36
第22回全国女性消防操法大会に出場して…………… 栃木県小山市女性消防隊 ……	38
一般公開のお知らせ…………… 総務省消防庁消防研究センター ……	40
第30回中国消防視察について…………… (公財)日本消防協会 ……	41
うちの名物団員…………… 記事記載各県 ……	44
消防団の広場(奈良県)「消防団員意識と技能への飽くなき向上心」…………… 上牧町消防団 団長 竹島成佳 ……	46

編集後記

## 表紙写真説明

### 「わに塚の桜」

わに塚の桜は、こんもりと盛り上がった塚の上に立つ樹齢300年あまりのエドヒガンザクラです。日本武尊の王子武田王が埋葬されたことから「王仁塚」と呼ぶようになったとされています。晴れた日には、この桜と一緒に八ヶ岳を望むことができます。

(山梨県韮崎市)

平成27年度全国消防団員意見発表会、消防庁消防団等  
表彰式及び消防庁消防団協力事業所表示証交付式  
平成28年3月6日(日) 於 ホテルルポール麴町



平成27年度第15回消防団幹部候補中央特別研修(男性の部)  
平成28年2月3日～5日 於 日本消防会館



平成27年度第15回消防団幹部候補中央特別研修(女性の部)  
平成28年2月17日～19日 於 日本消防会館



## 我が街の消防団応援の店 「消防団員応援制度の推進」

(公財)香川県消防協会 会長 大西 光雄



香川県は、日本で初めて国立公園に指定された瀬戸内海国立公園の中心に位置し、四国の東北部にあります。面積は全国でも小さく（約1,877km<sup>2</sup>）、平地と山地はおよそ相半ばしています。海面には多数の島が点在し、東洋のエーゲ海とも表現されるほど風光はまことに美しいものがあります。気候は、四季を通じて温暖少雨で、気候溫和、明るい瀬戸内海の気候に恵まれており、美しい自然と温暖な気候に恵まれた本県は、万葉集にも、「玉藻よし讃岐の国は国がらか見れども飽かぬ」と歌われています。

現在、本県では、「うどん県。それだけじゃない香川県」プロジェクトを展開しており、うどんだけではなく、食や観光、アートなど香川の魅力を全国に情報発信しています。3月20日には、瀬戸内海に浮かぶ12の島々などを舞台に、現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭2016」を開催しました。3回目となる芸術祭では、これまでも増して充実したアート作品を公開し、イベントを開催するとともに、食や地域文化の交流などの新しい要素を取り入れました。

さて、平成27年4月1日現在、本県には、全17消防団（8市9町）で、7,722名（うち、女性148名）の消防団員が活躍しています。消防団員数は、昭和37年にはそれまでの1万名を割り込み、その3年後の昭和40年に

は9千名を割り込み、更に昭和51年に8千名を割り込んで以来、7千名台で推移してきています。最も少なかったのは、平成17年4月1日現在の7,478名でしたが、関係各位の努力によりまして、現在では7千名台後半まで増加してきています。ただ、全国的な傾向と同じく、いわゆるサラリーマン団員（平成27年4月1日現在被雇用者割合67.13%）の増加による昼間の消防力の低下や高齢化（平成27年4月1日現在平均年齢43.9歳）、長期的な減少傾向が課題となっています。

このような中、平成26年7月に第27次消防審議会から「消防団を中核とした地域防災力の充実強化の在り方に関する中間答申」が出され、いわゆる「消防団応援の店」の取組みを実施している地方公共団体の事例も参考としつつ、同様の取組みの展開を図るべきとされました。

さらには、平成26年秋に、県下市消防団長会議から県に対して制度創設に向けた要望がなされるなど県内の機運も高まりを見せたことから、当会では、県の協力を得て「消防団応援の店」の新たな制度を創設する運びとなりました。

制度の創設に当たっては、極力コストをかけずに良いものにしようということで、ステッカーや会員証などの図柄は県の高等

技術学校の先生に作ってもらったほか、マスコットキャラクターは県知事に、そ



の名称の「青鬼団長くん」は高松市消防局長に、それぞれ決めていただきました。

「消防団応援の店」がうまくいくかどうかは、応援事業所をどれだけ確保するにかかってくるので、当初は、県や市町の広報誌・ホームページ等での周知、商工会、商工会議所、同業者組合などの協力による組合員等への周知、電車内でのアナウンス、主要駅へのチラシ・ポスター設置、新聞、ラジオ、テレビなどを通じた広報など広範囲へのPRを積極的に行いました。

しかしながら、待てど暮らせど、事業所からの申し込みが来ないではありませんか。申し込みがあったのは、個人的によく利用する店舗に、直接、説明とお願いに行った数軒のみ。

こういった状況に危機感を持ち、旗振り役を担ったのが県でした。県知事は、御自身の御家族が消防団長であったこともあり、消防団への思いが強いとお聞きしており、今回の制度についても思い入れがおりだったとのこと。当面の目標を1,000事業所として、県から各市町毎の獲得目標数（県・市町半数ずつ）が示され、募集活動の方法もこれまでの広報型ではなく、1軒1軒足で回って歩くことが推奨され、獲得数が芳しくない場合には、個別面談が実施されたほか、県内各地の消防団の会合に出席するなどし、募集活動への協力依頼がなされました。

その結果、平成27年9月には、善通寺市が一番に目標の100軒に到達し、県下全体では804軒まで登録数を伸ばしました。

善通寺市がいち早く目標を達成した事実は、他の市町の起爆剤になり、この後、一気に登録数が伸び、制度開始の平成28年1月1日時点では、当初の目標を大きく上回る3,277軒もの事業所の協力をいただく運びとなりました。

この3千軒を超える事業所の協力が得られたという結果は、住民の方々の南海トラフ地震を始めとした大災害への危機感の表れでもありますし、消防団員やその家族に対する感謝や期待の表れであると考えています。

本県の街なかを歩きますと、あちらこちらに応援事業所のステッカーを目にします。まさに、地域全体が消防団員とその家族を応援している、本県がそういった県であったことが証明されたのではないのでしょうか。



<ステッカー>

我々、消防団員は、こうした光景を眼前に、自らの活動に誇りを持ちつつ、本県の消防力の充実に尽力していかなければなりません。

## 東日本大震災から5年

(公財)日本消防協会 会長 秋本 敏文

今年、あの東日本大震災から5年になります。あの時の消防団の生々しい活動記録を「消防団の闘い」としてまとめ、これらを踏まえながら、今後の我が国の消防体制のあり方について意見を述べ、その実現のため新しい法律を制定することを提言しました。これが国会議員の方々のご尽力で「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」として実現しました。この新法の趣旨実現が課題です。

このような状況で「東日本大震災から5年」というシンポジウムを開催し、5年前をふり返りながら、これからの消防のあり方についても自由にご議論頂くことにしましたが、今回は、これに関連することをいくつか申し上げます。

まず、災害体験ですが、東日本大震災だけでなく21年前の阪神淡路大震災、特にこれは大都市直撃の大地震として、神戸市等の体験はもっと注目しておかなければならないと思います。

「東日本」後も、局地的な豪雨、火山噴火などさまざまな災害がありますが、局地的な豪雨などは、伊豆大島、広島市、日光市などで相次いでおり、地球環境の変化を背景とする構造的な要因によるもの、どこでもあり得るものと考えられるべきではないかと思われます。

これらに的確に対応して、二度と東日本大震災のような体験を繰り返さないようにするため、日頃から地域の皆さんと地域防災活動プランづくりを進めることなどを提案していますが、このような地域活動を的確に実行するためにはいろいろなことが必要です。

そのひとつに情報のことをとりあげてみます。これも幅広いのですが、ひとつにはそこに住んでいる人のことまで含む地域の自然的社会的な状況に関する情報があります。また、災害に関する正確な情報も大事です。先日の中央防災会議で火山噴火災害対策がとりあげられました。噴火の事前予測は技術的にむずかしいそうですが、被害をできるだけ小さくするためには、火山噴火だけでなく、津波や局地的な豪雨などいろいろな災害についての事前情報が大事です。雨はパソコン上の気象庁情報でも、その土地の、また影響があり得る上流地域の様子もかなりわかりますから、消防側としてもこれらの情報入手には努力しなければなりません。また、さまざまな災害情報の精度向上などについて、できることがあれば消防側としても協力しなければならないと思います。これらを通じて、地域防災力の充実強化を進めることが大きな課題です。

# 第15回消防団幹部候補中央特別研修を開催

(公財)日本消防協会

日本消防会館において、第15回消防団幹部候補中央特別研修を男性消防団員の部は2月3日（水）から5日（金）まで、また女性消防団員の部は2月17日（水）から19日（金）までのそれぞれ3日間にわたり開催しました。

この研修は、将来消防団の幹部として活躍が期待される団員に対し研修を実施するもので、全国から総勢216名（男性消防団員の部131名、女性消防団員の部85名）が参加しました。

今回は東京都大島町、土砂災害の被災地消防団の活動事例紹介、災害情報と対策、消防団を中核とした地域防災力の充実強化についての講義のほか、東京臨海広域防災公園（女性消防団員の部）を視察しました。また、テーマごとに別れて実施した課題討議では、各地域の実情や課題などについて活発な意見交換が行われるなど、有意義な研修となりました。

受講者からは、「参加した全国各地の消防団員と活動内容や取組みについて意見を交わすことができ大変参考になった」、「講義で得た知識を今後の活動に役立てたい」などの感想が寄せられました。



男性消防団員の部



女性消防団員の部



## 第15回消防団幹部候補中央特別研修 講義科目

### 【男性の部】

内 容	講 師
講 話	日本消防協会 会長 秋本 敏文
災害と情報	静岡大学防災総合センター 教授 牛山 素行
2つの大震災を取材して	NHK 解説委員室 解説主幹 山崎 登
危機管理	Blog 防災・危機管理トレーニング 主宰 日野 宗門
活動事例(土砂災害)	東京都大島町消防本部 次長 羽根 高明
消防団を中核とした地域防災力の充実強化	消防庁 地域防災室長 木村 宗敬
課題討議発表・講評	消防庁 対策官(併)消防団専門官 伊勢村 修隆
課題討議テーマ ・若年層の団員確保対策について ・サラリーマン化が進む中での効果的な活動方策について ・消防団の訓練のあり方について ・消防団活動の問題点と解決策について ・消防団を中核とした地域防災力の向上について	

### 【女性の部】

内 容	講 師
講 話	日本消防協会 会長 秋本 敏文
これからの時代における女性消防団員の役割	元東京消防庁 丸の内消防署長 谷口 由美子
災害国日本を生き抜く知恵を学ぶ	リスクウォッチ リスクコミュニケーター 長谷川 祐子
消防団を中核とした地域防災力の充実強化	消防庁 地域防災室長 木村 宗敬
東京臨海広域防災公園視察	
女性団員の活動のあり方(各国の状況を交えて)	東京都赤羽消防団 副団長 小澤 浩子
2つの大震災を取材して	NHK 解説委員室 解説主幹 山崎 登
課題討議発表・講評	消防庁 対策官(併)消防団専門官 伊勢村 修隆
課題討議テーマ ・女性消防団員の役割について ・女性消防団員の確保対策について ・女性消防団員による新たな消防団活動の展開について ・消防団活動の問題点と解決策について ・消防団を中核とした地域防災力の向上について	

# 第 68 回日本消防協会定例表彰名簿

(公財) 日本消防協会

- 1 日時 平成 28 年 3 月 8 日 (火)  
午後 1 時 開式
- 2 場所 東京都港区虎ノ門 2 丁目 9 番 16 号  
日本消防会館 ニッショーホール



## 3 式次第

- (1) 開 式
- (2) 国歌斉唱
- (3) 消防殉職者に対する黙祷
- (4) 式 辞
- (5) 表 彰
  - ・特別表彰「まとい」 ..... 10 団
  - ・特別功労章 ..... 10 名
  - ・表彰旗 ..... 43 団
  - ・竿頭綬 ..... 89 団
  - ・功績章 ..... 957 名
  - ・精績章 ..... 2,280 名
  - ・勤続章 ..... 7,237 名
  - ・優良婦人消防隊 ..... 12 隊
  - ・優良婦人消防隊員 ..... 13 名
  - ・永年勤続者表彰 ..... 2 名  
(都道府県消防協会等役職員)
- (6) 祝 辞
- (7) 受章者代表謝辞
- (8) 万歳三唱
- (9) 閉 式

第 68 回 日本消防協会定例表彰名簿

特別表彰まとい

10 団

都道府県名	消 防 団 名
岩 手 県	花 巻 市 消 防 団
宮 城 県	南 三 陸 町 消 防 団
神 奈 川 県	横 須 賀 市 消 防 団
茨 城 県	大 子 町 消 防 団
岐 阜 県	瑞 穂 市 消 防 団
大 阪 府	阪 南 市 消 防 団
奈 良 県	橿 原 市 消 防 団
広 島 県	広 島 市 安 佐 南 消 防 団
香 川 県	善 通 寺 市 消 防 団
熊 本 県	芦 北 町 消 防 団

特別功労章受章者

10 名

都道府県名	役 職 名	氏 名
青 森 県	青森県消防協会会長	中沢豊美
福 島 県	福島県消防協会会長 郡山市消防団団長	鈴木英雄
東 京 都	東京都消防協会会長 向島消防団団長	沖山 仁
埼 玉 県	埼玉県消防協会会長 深谷市消防団団長	坂田秋雄
栃 木 県	栃木県消防協会会長 宇都宮市消防団団長	伊澤幸一
富 山 県	富山県消防協会会長 魚津市消防団団長	高野行雄
鳥 取 県	鳥取県消防協会会長 江府町消防団団長	大岩泰彦
愛 媛 県	愛媛県消防協会会長 久万高原町消防団団長	土居敏夫
大 分 県	大分県消防協会会長 豊後大野市消防団団長	近藤光文
鹿 児 島 県	鹿児島県消防協会会長 長島町消防団団長	諏訪義則

優良消防団 (表彰旗)

43 団

都道府県	消 防 団 名
北 海 道	留 萌 消 防 組 合 小 平 消 防 団
北 海 道	紋 別 地 区 消 防 組 合 紋 別 消 防 団
北 海 道	北 十 勝 消 防 事 務 組 合 士 幌 消 防 団
青 森 県	外 ケ 浜 町 消 防 団
岩 手 県	葛 巻 町 消 防 団
宮 城 県	多 賀 城 市 消 防 団
秋 田 県	大 館 市 消 防 団
山 形 県	鶴 岡 市 消 防 団
福 島 県	会 津 美 里 町 消 防 団
新 潟 県	潟 小 千 谷 市 消 防 団
東 京 都	調 布 市 消 防 団
神 奈 川 県	逗 子 市 消 防 団
埼 玉 県	所 沢 市 消 防 団
群 馬 県	馬 玉 村 町 消 防 団
千 葉 県	山 武 市 消 防 団
茨 城 県	結 城 市 消 防 団
栃 木 県	木 野 木 町 消 防 団
山 梨 県	鳴 沢 村 消 防 団
長 野 県	下 諏 訪 町 消 防 団
福 井 県	嶺 北 消 防 組 合 あ わ ら 消 防 団
石 川 県	小 松 市 消 防 団
三 重 県	尾 鷲 市 消 防 団
愛 知 県	名 古 屋 市 城 北 消 防 団
愛 知 県	岡 崎 市 藤 川 消 防 団
岐 阜 県	垂 井 町 消 防 団
大 阪 府	寝 屋 川 市 消 防 団
兵 庫 県	小 野 市 消 防 団
奈 良 県	高 取 町 消 防 団
滋 賀 県	甲 良 町 消 防 団
和 歌 山 県	串 本 町 消 防 団
鳥 取 県	取 南 部 町 消 防 団
島 根 県	津 和 野 町 消 防 団
広 島 県	広 島 市 安 佐 北 消 防 団
徳 島 県	上 勝 町 消 防 団
香 川 県	小 豆 島 町 消 防 団
愛 媛 県	伊 予 市 消 防 団
高 知 県	宿 毛 市 消 防 団
長 崎 県	小 値 賀 町 消 防 団
福 岡 県	桂 川 町 消 防 団
佐 賀 県	大 町 町 消 防 団
熊 本 県	五 木 村 消 防 団
宮 崎 県	国 富 町 消 防 団
鹿 児 島 県	志 布 志 市 消 防 団



北海道

丸久三米大金野坂高新北佐小水渡獅子今池熊寺守本磯窪菅平今吉山田田森伊千  
山村部山塚丸坂江山谷川藤棕谷邊原 田野岡屋間島田 井井田田中中重藤葉  
博茂正栄泰正英國友善 秀榮 健松 利主信邦俊正良 德 耕 宏昭百信  
幸雄行藏淳道章雄樹友彰勝輔松三雄哲碩稅一代介明一雄論造悟護明男子子

青森

山内藤田澤士 城 木田名平口田田形岡橋光藤  
小宇成杉福森内橋佐附蝦且樋澤花山松高倉佐  
幸堅由則精淳孝友芳長勝吉辰俊敏博文和 裕貴子  
雄一弘夫一一男昭英治雄明美文英利雄彦清子

岩手

澤田崎藤館川木巖 田木田藤山橋木屋敷船口地友村地田春  
藤松川伊内前佐小千佐泉佐中高佐守高三田大尾柳本武三  
利之治雄雄超夫夫司夫昭司彦司也泉雄久一男一明見蔵子  
政克喜壽秋 哲 堅吉義清一 幸隆誠房勇 孝昭依  
義 春記政傳正裕榮 秋次忠久行耕貞正勝 一昭てる

宮城

氏佐並恵大奥加鈴向谷岡鈴遠車水早比工千窪飯千今佐  
家藤木津保山藤木井津崎木藤塚谷坂毛藤葉田高葉野藤  
勝信明芳朗弘悅司壽郎薰夫雄彦志雄郎夫一幸章志雄子  
隆博子聡勉  
清重洋  
田利藤石中  
内浅佐武田

秋田

池山木部藤藤山藤賀井池原納良木  
敏隆一 嘉満 喜隆修二一 一 修  
幸一信敏憲博功雄芳二郎郎男肇一  
義男孝男一裕雄広弥幸淳美守夫之雄孝敏勉喜彰篤男也男信子  
彦治郎芳雄富博夫一吉郎郎幸一  
和修長久貞信富壽信大兵源俊

山形

阿開山村鶴大松横齋齊大佐高木渡仙佐今本難村菅五十土渡  
部沼口山谷泉田尾藤藤場藤山村部田木谷澤井間波上原嵐井邊  
武泰繁一忠 雄 武尚英寿より  
福島  
林川藤藤橋根藤坂橋野沼 藤司  
小松齋伊高関佐松高上柳星佐郡

福島

林川藤藤橋根藤坂橋野沼 藤司  
小松齋伊高関佐松高上柳星佐郡

勝昭子弘之正喜昭喜伸典市八雄雄人昭嗣人道之紀仁  
秀照芳勝博 源博正 正正正一昭直宏泰正弘宗靖  
雅 康 重明和哲 正宏誠美孝 孝伸正 和育晃政 隆千和忠健勝敏敦富士雄  
保藤澤室田木井瓶取崎代藤木井 原木口川戸像口村  
新佐桑小前鈴藤二築岩田伊鈴室星高鈴野佐宍宗芦川  
若平齋長中小原星倉中赤清伊萩本滝小石寺坪瀬星上高齋金涌須元佐伊佐田菅小

新潟

杉田藤川川林 野内島塚水藤原多沢倉月本谷沼 村野木崎井田井藤藤村野林  
彦毅雄清充之彦弘司稔彦吉一好德勲夫和美堅務雄弘一文孝行雄重治一美文司雄

久二司徹奈  
和雄正 香  
美枝 子人彰昭夫信幸志幸明夫彦男子茂美矢之博市章郎昭功司子子鈴  
川一三儀明夫春德夫夫幸行稔已英徹郎秀助美子  
津 健 芳伊幸 正 明

東京

利島戸井川 川 田田屋田元桐原納木原 田田谷茂坂田藤水泉生川藤子須口  
足山郷藤脇 小瀧茨増土棄秋片上加柏小星山滋森丸石横佐清小羽宮加安奈田 神矢德小秋奥桜高高佐浅高中山小鈴宗太菅半宮  
奈 部江島山野井梨野伯田橋里野澤木石田家田田

奈

神矢德小秋奥桜高高佐浅高中山小鈴宗太菅半宮

埼玉

関 根

山澤小和柳田鈴野高鳥小秋石冲新清金小臺坂清  
中田峰田澤嶋木口橋海倉山井田井水子山 本水  
義貴一健紀一健定 佳久政 泰義和正  
吾弘成春孝一己勝一二昭一章栄子  
新恭千光 正博 健昭良修 喜真理  
直須町五林内摩天金塚中久石田高

群馬

井田田嵐 田庭谷井越里田村田  
琢磨夫雄弘彦久齐夫高彦則勇昭弘彦隆明司郎  
琢藤繁考正敬 幸政映正 德克一 和誠甚

千葉

渡島大笠藤平水小石鈴松伊渡宮柴田岩工飯浪  
辺山野川村田野池井木本藤邊澤崎澤瀬藤島川



輔二弘一二見子  
亮健安幸誠 三枝  
村嶋本島藤友本  
中福山野佐大宮

**崎宮**  
二陸智男男次雄治晃治夫明勝郎基一子  
浩英善重富文章文泰安幸和秀義聖幸伸美  
木田川野下川田村谷口田葉斐中尻斐田  
鈴坂押矢松荒森今金山和椎甲田野甲廣

**鹿兒島**  
志男弥尚郎優朗弘一郎郎志繁三一弘廣和  
孝公德良司 克政周一俊清 幸陵昭正美  
原永山松口内田村竹齒久畑塚釜吉留野  
之出口ノノ脇園時小古内川石中小稻中  
鉦福大若井竹脇園時小古内川石中小稻中

**沖繩**  
賢信朝  
屋嘉元  
照比濱

喜勉彦道久宏文樹已伸弘信清助郎雄樹德充高  
康 信昌和友久英常康靖 良万功高克 幸  
明幸剛和太賢智好洋雄桂輝和高 光光信孝靖哲忠聰賢幹讓昭早和

**賀**  
喜勉彦道久宏文樹已伸弘信清助郎雄樹德充高  
彌生喜広久郎治博三治二一紀利之宏男也幸雄弘明一正雄二則児也

**佐賀**  
西原納森水浦井藤川田松石副森永吉山小坂中  
岡垣本下口田野部中崎藤里南橋田村 口下形岡子村山内松本上永

**熊本**  
富志舛山原古隈植田尾加北阿高吉内榮水森瀬西金奧三山飛橋井福

市修彦也和治行み 志元嚴彦生明也郎男光典義司洋昭二豐雄久男人勝明也子 憲治生健一美男美二紀稔美博次司明幸  
庄 和勝仁新敏ひと 正一 幹一 順嘉一 清英勝純 博金 明和美 貞 茂 高美芳 国敬常 孝年哲厚雄春 正文秀勝勝博  
口 田下根田田富 越川上崎木内洗 森村中藤藤田本賀石田科中原 木木尾 野田崎川藤島島澤保川野藤藤生藤丸藤  
浦東松山三池津稲 名下野山黒山御手 辻高岩田近首黒田古大野山田梶基荒勝中 長藤石小齊溜中古水香河後齊麻佐軸衛

**福岡**  
越川上崎木内洗 森村中藤藤田本賀石田科中原 木木尾 野田崎川藤島島澤保川野藤藤生藤丸藤

**大分**  
野田崎川藤島島澤保川野藤藤生藤丸藤

俊郎子 雄公樹一泉三三雄仁二一明祥明知久義浩男雄司江 生文將史人正誓二正子嘉 德勉俊司郎士人学男男郎啓  
英芳るみ 英 建公 純真文清健 幸英正秀朋常德 道美讓和 幸義信正賀修 研統榮政 滿 政昭庄浩元 輝哲清八  
上渡好 地田智藤山部田色智井島山野田田森下田邊家本部 澤頭崎 田山地崎村本口 添井瀬上田里野末松口庭内  
井唐三 **愛媛** 加堀越伊片渡池一越長中高矢永榭家垣梶渡清坂眞 中仙島辻武岡宮尾岡岩山 田筒川川本今吉武平谷中山

**高知**  
澤頭崎 田山地崎村本口 添井瀬上田里野末松口庭内

**長崎**  
田筒川川本今吉武平谷中山

和明治史雄次豊聖樹郎行平和恵 介次宏則晃夫二実己英明茂志江 稔晴年正文賜則治司忠彦子 雄實聡一則肇和  
清秀泰康幹信 英又一正和義紀 恵公 和 雅建 克康博 弘久美江 豊三 高弘弘正利孝 洋由利子 文 隆正 久  
上原畑橋迫本島木山 廣保船部 本野清尾本山田田本岡部田 村 木 内橋谷米川山原居出東田 木杵川原馬川木  
村羽廣高大湧福佐横畑島久木安 **山口** 横中國丸河寺町淺村勝村守東西 村 相笹西三大久平平安新東森磯 **香川** 佐々白石松有江三

**山口**  
横中國丸河寺町淺村勝村守東西 村

**徳島**  
相笹西三大久平平安新東森磯

**香川**  
佐々白石松有江三

人治延司生樹徹生淳志雄一子 行史郎人二勉一人政則治樹男介郎一誠孝昭信樹寿一巧一孝博茂仁 廣文一康行則嗣一  
正欣安勝浩元 達 仁達栄悦 正清和雅祐 文文保昭良雅晴勇耕純 光義佳則陽 雄保 憲博栄忠則正泰謙  
田部本立上山原崎井山藤田川 藤尾堂井田田崎川田山水田堀畑田國邊木井津葉本岡原測田本木本 岡狩尾島本根田上  
岡渡橋足川森鶴金安熊齋戸小 **岡山** 田妹牛水安水森江景丸清石金廣原大渡佐酒河秋松出田河岡森山 **広島** 西小西久宮山太村

**岡山**  
田妹牛水安水森江景丸清石金廣原大渡佐酒河秋松出田河岡森山

**広島**  
西小西久宮山太村

精績章受賞者 2,280名

久幸三博史  
敏省義喜代  
浦川卷門路  
松桂八寺木屋

治良秀治司  
賢和文康和  
田田池田藤  
吉寶菊花伊

和郎司幸宏  
敏慎昭良  
野田堀葉場  
折畑柳千小

人一仁雄治  
樹修 時昭  
藤中藤村森  
後田佐木水

明春彦彦昇  
由雅良一  
塚水嵐下  
大芝清五坂

**北海道**  
有己一  
藤田中  
佐池田

德喜一誠広和之美平宏喜賢一彦明幸洋均努悦健郎巧司則豊子  
一広淳 隆義裕利昌勝正 啓一英恒 清 哲 勝 千 喜俊昭博淳弘武郎哉男司一美人雄衛幸樹一治雄一市市弥雄美幸一幸徹一一

浦谷岡沢藤橋山藤渡澤野木田藤部門藤部間橋塚須藤田木泉 藤川川 野藤島藤井野橋藤邊佐 瓶和田 田田部形本辺林田島田谷林釜藤  
大内松金加高横伊去成上佐池加阿士齋阿本高石那佐遠鈴平 加石田野紺佐寺齋石菅高佐渡遊本三浅安畑本原矢宗橋渡小吉笹森熊小須佐

豊秋肇一嗣彦雄郎市榮夫門雄博市市雄仁博志弘雄己 記一臣忠幸治一広彦誠弘史昭男一義一孝薰明順一一義見央志一文幸明力彦之一彦助  
輝 盛隆秋網源新喜恒左藤 善清和 義千義多克 直良秀 博友春昌文 利一善義良喜俊正 英 秀征明友一清康弘孝英 明裕俊清啓

友木山藤野田島山野岡藤 弥 田原原藤橋野澤部川藤橋 田藤村橋屋藤塚藤藤部山山 原野橋崎藤橋山尻上屋藤田田場山崎原澤澤田戸田橋橋  
大鈴長佐今大藤畑今富佐高珍藤菅佐高近金阿石佐高 原齋今高土佐赤後齋阿奧村林杉天高大伊高奥沼井土佐西吉大奥姉芦藤富吉穴山大高

郎男男幸夫均男徹均仁雄治昭順一喜夫央夫行操喜昭行敏正一彦夫一悅剛男雄悦子 元純久雄一子三二美雄德美勝一吉一晴彦裕和一榮英  
哲喜敏勝郁 睦 敏政賢義 清榮作 信忠 亮俊正 秀良文明吉光 公忠新智伊 次憲良一憲正藤鉄博 米 光弥真 成準 伸

田谷原田澤藤葉形橋橋子家玉野川内 藤 野井川葉田塚波葉山山井村上橋部住原 村 慈藤澤藤橋藤田高藤藤原藤 藤 屋藤樂澤木松村  
長熊管松宮佐千尾高金氏兒只今宮袋岸後原狩浅及千黒平岸千武武櫻川村高阿安相 川村木久佐島佐高齐山大加加德佐齊越伊相藤佐小木

力二助一夫夫記建一一義彦展司昭正光一滿志信見悦修幸幸美男男夫一求彦雄夫強明司惠子 昭彰之吉悼治榮一志郎一治夫幸志隆憲雄雄二  
信新勇紀勇有 正新正俊正勝成敏義健 津勝正講 義清正茂和康健 昌敦克 啓靜榮 德 昌政 安勝正政芳正敏久美清 正喜登禎

美寺測寺山 野上田原倉田藤木橋寺村部寺戸橋原寺狩藤里幡坪泉村谷田本地田代田原下本 木井藤坂水内田生口野貫木澤橋崎岡井野辺邊  
渥小岩小野 小千水井吉藤朝多佐佐高小野阿小野小野猪後沢八大小高大米坂下野田武松木松 鈴堀佐早清大山針澤大鳥鈴沼沼高山平平清渡渡

志夫德一均一教一司治志義雄美道美悟強一治博郎一春雄功憲彦司一明信則正靖志文吉廣勝一子子 一夫弘壽好明榮行一男一夫德弘樹一男  
正立秋良 克慎 松高久久弘繼廣 純博忠与 敏光 則和憲喜泰高一 忠忠榮正清賢茂惠 伸定良 成泰 信誠秀祐哲明一秀貞定

本藤川沼上田呂 士館場村村橋山山濱井葉口田月 藤館島池川田問良内中川地部口藤 田室中内 田田池木崎國內越保石盛砂澤藤澤藤木  
宮佐白戸三松野笹福西船中中高松白横外千山浦野今齋大磯菊田八中奈山田戸菊鳥寺佐今鎌大田島 沼吉菊佐柏小城大久大糠合玉佐米伊佐

夫登貴弘寿正夫人正兎明昭治一信雄規雄彰昭彰己尚一幸一幸雄裕弘浩史正男仁夫二恒一男介男雄誠一充士夫孝博信昭則二行義子  
一 敏敏孝 富重良悠英広國愼 達重康正 正 伸秀健正繁義和 研佳靖雅俊賢 優先良邦和 孝 雅哲寿和正則幸英盛重千 昭克昭

成津上島井本川輪川山部部土内部泉村田測 田原谷田田村田動山上本邊生木積村野原田野田藤坂田村田浦谷本谷藤藤原谷藤林間 嶺石本  
神岩水大三谷石三波小竹阿福庄南大岡品田今野大長武村中福不畑岩山渡土鈴久藤青小和大山加加松今坂三熊橋萬佐工菅新伊小風 駒赤坂

青 森 嶺石本 駒赤坂



行子鶴子 一治徳司津郎治一治三夫論和範雄之子 昭雄則真介正人司美実治章治彦子 保之行一雄信正滋豊明一博則夫宏幸二志也浩  
紀美千洋 善英芳一由一福孝源義幹 文久有弘典 裕貞喜一洋 憲健雅 清 昭和恵 信秀信和美喜 宗謙正孝一幸繁繁仁和孝  
木塚瀬武 宮口野島田口保谷下端川口前口崎山 田本田田林崎村保路泉 口口西中 松木井澤田肥口鼻口本田田水川藤元子原田郎  
藤大村徳 中野上八松出久関木河上澤備山白上 本岡平高小岡西新大和向山西寺橋 能松温室池土谷竹山熊吉押清山齋山金鬼太五

福井

石川

富山

一修幸之洋明彦一穂広り敏彦透博健彦秀勝士学茂基一之平司央浩彦央一人文満良武祥行登隆行清夫正徹治志人一志雄文忠宏佳仁一吾夫  
浩 孝勝光秀憲邦功明高さ雅文 俊 信勝昌 剛 直晃邦公賢朗 隆光新速吉裕信 正博 康義 富幹 良祐久俊高陸芳 智 彰健健益  
沢田立 邊岡井島藤藤原澤田藤井島島上下井田本野石口木村起原山田村沢原江廣川田沢澤村原原山木井林井井山橋山口村盤藤水方橋崎田  
小山足濱渡花今矢伊伊桑松増佐筒中松川木今山森佐三川青下下塚小平三宮小吉赤宮太滝横峯北奥丸鈴岩小平熊櫻内高前山中常須清緒小山島

雄美 篤治二徹博一公郎浩雄司勝健敏仁也夫久雄也一一広久治朗一修行男一則文良人り 幸彦明太司靖涉一明徹喜学一輔雄人介宏道美  
次明 榮耕 政准昭英 一俊 治哲郁守智哲賢幸一治寛 菊行健政寿孝昭しを 利忠源勇哲 敏正 英 竜政幹雅雄智原秀  
林津 澤野菅村澤水東瓜藤川卷水山 月 野野沢村田澤山宮森室 野倉川下野武井田木詰水 刃山井澤刃山屋出田泉津山原内原口中口井内  
小久阿 小天小志塩清伊加内早八清中望佐佐深霜窪岩向雨三小辻小石九宮河野平原溝橋清 渡畠由高渡小土井角森神中荻竹永関田田吉竹

梨山

長野

光実一也男裕一人弘夫幸秋宏隆廣廣郎彦市美合 行修雄忠一洋功茂夫宏寿一仁吾昇一浩司則司郎夫晋紀夫一隆弘男之行文一弘弘雄雄男和  
重 修哲英祥光良 正一恵 二幸恭進恵小 利 紀 健雅 敏威和宏克貞 元保哲一憲成晴 孝政俊信雅幸孝正隆隆幸和秀久幸俊  
崎間 島木塚沼又田邊川宮本本峰沢 嵐塚池尾 橋林藤野梨澤熊井實田谷澤井藤藤類野石嶋山 山泉藤澤本山馬馬濱面森 澤木戸戸 島  
田下柴横高飯小栗武渡吉大根山遠松塙五飯菊松 柵 木 柵小斎岡高土戸直田柏國八荒齋佐大石揚永秋長柴今伊前松平相相小江小岡深鈴森森磯脇

木柵

卓之孝夫孝司一勝行雄進子江 志造勲夫人男輝義政昭郎雄司一男曉市治直勝勝幸一勲幸也志義男三美茂次彦夫光次一行夫幸一男夫一雄実  
道安美義弘修 良幸 佐春 喜大 孝直光政克一忠五一康直時 信計幸正茂易孝 浩勝強政瑞治和 浩寿俊正政浩光英寿健隆晴司幹  
田木田代川藤辻井 山島尾野 泉野谷木藤山澤山野木沼葉川倉本川森部村田栖藤橋部澤 田坏子山原藤橋賀藤崎木橋原中村保子 野村  
島鈴満八黒加高土森景飯瀬牧 茨 城 林小大金鈴伊富金森宇鈴小千大小根長大阿中黒來近高阿鬼原角小益横栗佐高有齋小鈴高蜷田市大金环海木

成茂爾尚治人好二光一晴典宏智勝繁通治之一正志彦夫猛司史已一志利久樹明博正一也悟洋雄久広也一也一志夫之彦節宏則彦幸之治由司已弘  
一 建宗光敏光啓訓祐吉正昌 邦 厚勝裕謙能喜雅寿 裕正和幸清重和弘正 康克祥克一喜勝哲健智洋隆政浩芳 一欣正広雅秀光高正典  
瀬井井辺田木橋林瀬村田山池口川形口口藤田川崎田辺龜田崎内井本金塚田塚部藤田邊瀬崎浅村戸村川木毛田藤田高川橋崎川高本口江田  
廣今岩渡細青高吉木木増小小関皆尾川関伊寫長山増田石森山幸牛宮酒山國篠寺篠下飯飯渡加宮湯戸松中小鈴石内加作小室高宮西金岡山藤安

博男彦照雄司生雄成重之大和雄彰雄誠昭嗣男昭夫則基一幸優博裕広雄一里之之一也博也明二己志剛雄行仁彦明弘次也士幸二己繼司司史博

敏嘉國良貞辰龍元清昌真雅茂俊喜 範正光敏幸義智良宏 吉祥勝和圭夕泰正正良真義將智慎卓光 幸義浩晃 茂純一広貴洋克忠隆修和喜

木原村岡井 田倉 山見瀨原瀨谷岡中原橋田川中田藤原池深 中原下馬尾田宅谷植玉田田 中井田場澤井野立山村野井田木村濱藤木田曾水

正安中上向海濱板新秋増田水廣神松竹谷大鎌長田富安池小常谷田石松羽長吉三竹中本上上澤田安米待長酒荻足高中馬平高佐竹西近大森阿志

宏和宏司和之史勝博行史二洋広徳道司作幸子美 茂治次忠信武博一肇次薫寿明典隆彦宏彦志治一已敏之子 人孝弘由一紀之則廣一彦策

勝英保圭秀孝隆 保紀啓好和安具正拔五隆嘉照 清喜友善 信 嘉 久昌克惠秀孝和崇安幸利 勝淑 直繁雅雅耕茂紀光道公明晋

田田次本本村井 見垣淺崎岡村師下常谷尾塚長 田林取島口村川岡本松井木村中本保林角口上村田保崎中 野 本部木川藤一納川口村

松藤笠岡岡西福仲相柴湯澤徳吉岡宮末大北大袖 上氏熊村榎西石西楠小松八奥田萩大瓢倉谷川西吉久尾山 奥西住元八吉加丸加北山北

雄定美昭明二志也生行孝也生男一久弥彦美年保弘章志文司芳雄美司彦成光智一彦り 郎司昭三弘治繁敏明一健信彰也人昭彦樹久二一之則

昭伸正浩嘉淳正龍慶正康利公利亮史明勝克三 正 昌紀喜和孝克修勝和 惠昭みどり 清憲広幸 英 博隆乾 勝光正武孝智正史伸真忠一

賀藤知村下畑屋額田田村川田川野羽尾藤藤崎田野屋柳 田原田田松口田田島田島部 本尾原橋美村本川惠本内川野澤野本田 川元口 中

光武志西田小土額志石二桂前桂矢丹西伊後山篠上長一林山野仙島明山石平三西小堀 阪山安高宇野松市梶橋竹並引長波岸西堀古井樋白畑

孝徳治健孝是之彰彦志明孝光吾治夫徳税弘臣男二昇裕志久哉弘則太行夫則明弘樹寿弘也俊宏典理 巧二則範範喜進之道仁典秋生藏文八雄

哲重 邦和正貴信智秀重將健清郁一主眞秀和雄 浩輝正和良鶏宣富義秀康茂貴行眞雅千秀由 慶勝善昌重 裕美和和千圭今照弘輝

木崎田藤崎村田松野野村藤原野永山橋山屋原東永下藤野口藤俣奈井藤美山池井野野口倉村川井宮 谷林藤口 田村藤井橋浦田島家 和野

一聰康昌義司文義勤信樹幸男明文純則好明洋博義仁治美子  
賢 政利武正喜勝 明治哲澄正勝 道正貞千俊正 清真知  
武津野森 野中鬼村本村山村古多下重川下元 山津口本  
阿高中安林森村正中脇西河岩今佐宇大藏中大米辻横水川山  
志孝士義保治生三文巧彦浩理治明博郎幸司山美二彦高之寿毅修恭美夫利則美貴雄秀男雄幸則弘學彦生郎行子  
和 雄和 俊辰礼博 雅 賢正 幸信孝大雅優克裕晴明 裕公富勝政広義常義政幹弘和正 範寿哲忠昭  
前井歳野脇塚藤崎川木原下本代本田谷 村林 相田口宮田本山田 本貞 田川川東本松田部 芝野谷村田原  
大中大尺宮大加山好佐木高松上橋栗惠森松小轟川桑坂西門松米和滑福森段福新中高藤植平幸島問奧西田花石  
山 口 三裕己義輝介雄藏博男進吾  
祥雅博勝直敬文彰 実 眞

一男實誠史夫已三基夫之友誠久夫治一均卓人博進己兒雄行夫敏明仁芳已治樹一博雄朗之孝二一彦泰之義也彦郎伝正宏郎之子惠  
伸正 幸國広知 倫勝弘 恒郁英 勇 正健貴康貞勝敏健高勝健直誠 秀哲陽利啓雄 昌 靖 孝滿義一 一森淑裕津利 多  
甘尾田田山宅本 山田部 田安藤尾場虎山光正部原吉木下淵原本水山原本本本藤本山上上上島村神川 藤田田下竹越 田原  
美浅石櫛矢三直西亀井阿谷眞信佐丸馬小杉金本石前有鈴日田神畑清奧延松岡山安柳園大田村川青西白中澤近原半日小名西松藤  
廣 島 福崎林間 龍室小野 利正幸宏 彦文郎紀

明生剛昭幸明亨子 宏力毅一仁夫司二利夫敏則治史次司明夫德修利永己康史夫吾弘仁雄夫繁子  
泰敏 博寛光 美和子 祥 弘昭春克敬道寿 義幸勝周洋良信靖 朗浩基 雅和昇邦 良一 裕美子  
椋離井藤本藤岩根 脇部川原田山根畑谷間川山本岡水本尻島谷藤津木野原上橋田掘羽本島津花 玲司章和人雄登誠哉吾明男年海正肇文  
小伊永安谷遠繼山 森安石石池須坂田熊福阿朝山日 中清杉野福崎佐野佐津塚大丸花野大藤小野立 岡 山 野村田原水野元田田井居藤平井中山名  
河木石仕清佐香内内吉土加西石今片春

浩雄衛則浩明一人浩一之一昭政一弘道実紀 守清次秋司稔平志治紀良二肇生久男也章直雄人伯幸兒薰二具治也生範え  
稔昭喜芳藤 伸正藤利善德孝功伸正弘達千 俊 正重健 修武正嘉宏啓 壽幸拓雅史富正公英健 裕秀孝富充秀よ  
田見森原田 村下田澤田村 部場本村水 渡中石佐横喜龜三西広池中永峯鈴阪山亀尾福北廣東中越田澤星山岩北上  
土勝高上澤本西森前小村西伴服饗山奥清辻 和歌山 西橋本山多田木井尾田川長幸木本田 崎本阪畑山谷水中 合本本 北

則己夫史一則介悟広久二雄明志明聰二紀雄輝之彰也喜祐亨治子美 孝次二仁英喜一司治敬弘洋已伸一裕裕文司也良子  
正達章裕裕勝圭信明典研喜潤智智 久博文泰良 眞康恵 良直明 史廣清一雅廣順寛信善 好太 久 信康喜正勝裕泰久美子  
羽井井康川畑村中上本木山澤上田江岡谷寺西前山村西岡村本西田 田野島口村本嶋平田藤野田本本本本谷保上場  
鳥長石惟北大三田井藤八大井尾玉入埴城小安大中野今古山下岸 奈 良 上米竹樋下阪村中米近山福西鳥帽嘉 長高北井松山藤

滋 賀 孝男一太美幸正 和幸雄 伊三弘重  
東田川上居崎本  
長高北井松山藤

司雄二義昭則壽彦幸人也郎一德之茂二利三晃介東彦保一彦二潔也男也志也文博助洋正昭実源德喜弘男夫德彦弘臣昭志聰一馬也二學二護雄昭

嗣英嗣輝隆輝勝博富哲利和浩 誠千幸 祐一和公誠和英 進作光武和宏隆幸光興秀 重晴安一建稔治恒哲茂厚 公平一浩 敬 幸博

原神崎嶋川崎宅本倉本保田田谷畑田田本上崎中川品崎川星内田石口中川田藤 玉斐崎場田川前田里野上上永山山田口富本田田川川田本牧

佐土鶴東下宮三坂小松久大園森小原松吉井井江田谷阿宮中赤杉宮大坂浜網林加井兒甲長馬池森尾西上伊津村村德中中倉村重藤永吉和吉古川西荒

男美 彦則善文教務秋二光男裕文則彦幸志彦宏信芳豐信一健治雄孝一浩雄一信滋広一朗生毅一弘一朗久彦則久美子 照郎二夫優喜暢博

喜明 和正弘和敬 豊浩重明 美英伸秀勝邦富繁勝一広年 英俊法修 昭進重祐孝淳達大 浩善修哲和和光憲輝美 幸勇良秀 廣往義

吉濱 測取口田中尾田本口富野本賀戸添崎佐崎岡山 屋田坪川岡添添田井中上山安場島田瀬田石江藤岡谷川戸池山 宅鳥尻上口本田田

秋長 永高山坂田横豆山野倉平釘古瀬川野志山吉福辻名太太加村高溝鶴筒田井秋光草中池一池立鐘佐西八小藤小秋 熊本 三米田村中高津織

吾輝之學浩淳幸知治憲力文雄守直隆治澄彦子子 二二男義明敏德人司晴夫夫平之美伸彦已行二馬実弘郎生文德己幸秀昭則吾男範光光明男

新直義 和 秀嘉俊隆 康一 角儀喜智純 浩英安孝利英義一光孝利德万原拓正一辰則誠用繁 慎法正善厚英芳義広桂哲俊一利年絹

賀石藤田島原野野吉田嶋邊崎松中木田田良鳥倉 良中野藤迫藤塚東鼻田藤本田足野恒原津野崎邊藤山脇野 尾藤玉尾部部本部藤田海柳西

古立伊久原椿河奥有原中田宮石原鈴木池世中高 奈田長首南佐大安塔内後山彌月高久藤河矢嶋渡安原道河幸竹工兒岩渡案森安加和大青中

二穗昇市男次宏二勝二郎雄昭行輔弘弘夫男郎子 行一男秀昇芳幸一行幸悟芳忠政美紀幸一己保紀吉夫一実彦則喜美則雄進史二幸晴広男章

裕真 吾龍秀正信正英幸英浩和大光正健三信福 孝秀富道 勝勝修隆博 照 喜弘清義雄辰 美次正賢広和康英和正信 研良秀利勝逸重

永原磨谷 野浦田田崎田崎原本本村場丸屋田中 崎永永部田川園林田田野川石野林岡 藪場村村村野本田井野藤原 松田吉藤辺橋賀中島

吉藤播吉南平木笹永山吉山野坂濱吉馬金萬小田 山稻松財鶴中下今永花古田白城小吉関小馬木内上古竹村坪測三藤笠若上藤伊渡石古田中

譽志弘宏一剛好樹彦恵り 生夫郎三男満三英成也助興明文幸務典一彦富幸枝 馨人已治郎明三一行吾正一良之彦利義光孝猛人登治二穗

一能展圭 友登輝智さ 雅幹拓卓定 哲茂俊和啓高義好満 義真登重儀幸 直照 善忠正昭信修 昭和浩克武嗣博芳 尚 平成実

田内井野本宮場内家立池 下松保木松 木 本原武陸岡野越橋口問谷村原村森下 口野口木香神口田場田野 下田田永本原田口竹田本田口

内山浅佐岡宇都島清足菊 山安久高小尾山梶宗山笹津中高山矢新北藤田西山 門小山本綾鳴山松古濱甲辻川増島吉吉船野猪末吉松鎌山

雄義夫茂造隆勝晴均昇義浩司德二保子 男親行一起司二一治二勉博吾克二幸行郎敬夫男美春悟近彦元隆美忠次昇延次章治高志雄也介招直

次貞紀登良 正 仁安貞 廣 滿浩安研正修浩公利雄 成能裕博英耕 康照眞芳 政雅 博正 修 宗伸 繁 仁吉徹信宣寿

口本光西 湖柳原西本谷塚山村川 好 崎 邊橋田田龜橋河藤村野本山 納岡内徳部門橋口松部本岡浦村田野岡崎岡上池池水宮田川池

濱水南大岸原鷹篠大山綿手小中中山三 宮南渡高河岡十高黒安木矢藤片關加鶴山貞渡井高山若渡阪森影吉松日福宮稲宮井菊菊清信大小菊

愛 媛 崎 邊橋田田龜橋河藤村野本山 納岡内徳部門橋口松部本岡浦村田野岡崎岡上池池水宮田川池

宮南渡高河岡十高黒安木矢藤片關加鶴山貞渡井高山若渡阪森影吉松日福宮稲宮井菊菊清信大小菊

杉畑坂三吉飯吉松岩小川山平寺杉御  
 本中西本永塚田村本川口下野中本浦船  
 幸二順浩浩美智耕幹和公義弥照博和友  
 広郎一敏雄之雄也博広平幸晃文字子

**宮崎**

幸人治弘助郎郎司行志司敏男紀治和  
 博成義真正光哲宗誠敏一隆明三真哲宏  
 師屋原部山本衛田元元田浦岡高尾永野  
 葉椎篠淺藤熊鷹太坂井成大住戸瀬富中

川重吉西河吉白黒甲飯黒尾甲山夏黒横佐甲  
 崎永良原野野石木田干木前斐名田木山藤斐  
 正清真寿忠幸今朝伊浩秀智智豪竜文仁  
 和学志悟美明喜重直行明一明広介誠二秀志

**鹿児島**

前原木片野上江園間田野  
 村藺村田田田上江園間田野  
 斐田馬節照芳紀勝満秀修浩充耕孝  
 芳寿章郎明樹久稔均彦広志一昭治作一  
 昭幸子

有脇久山小新大塩片鶴小大志栗有石村橋北  
 村田保下城徳川田平屋杉窪目元村田吉口  
 淳敏真義尚俊正徹力豊文博正安浩昭俊幸富  
 一治一弘文洋朋郎三文雄明一昭一夫廣一良

勝仁福藤栗松竹宮  
 田田脇元上里  
 田脇元上里  
 茂賢清敏定由  
 視男雄治勉人登子  
 正尾則清清直英  
 夫守伊寛三勉雄則美

**沖縄**

仲志知沢嘉島銘比金  
 村伯花岬手袋嘉城

**勤続章受章者 7,237名**

北海道	柏田	かおる	他	487名
青森	八木橋	幹則	他	218名
岩手	藤村	義孝	他	317名
宮城	中島	敏明	他	306名
秋田	川村	元	他	317名
山形	大槻	徳彦	他	82名
福島	朝倉	一則	他	221名
新潟	白井	克久	他	192名
東京	藤原	康治	他	166名
神奈川	佐藤	邦男	他	149名
埼玉	榎本	久夫	他	244名
群馬	角田	俊雄	他	89名
千葉	秋元	静	他	206名
茨城	中山	英樹	他	109名
栃木	鎌倉	健司	他	89名
山梨	窪寺	文明	他	34名
長野	井出	庄一	他	42名
福井	尾野	義昭	他	52名
石川	成谷	佳史	他	47名
富山	浅野	清志	他	124名
三重	渡辺	俊宏	他	55名
愛知	一色	孝夫	他	120名
静岡	小川	弘之	他	57名
岐阜	森	明	他	45名
京都	奥村	徳藏	他	125名
大阪	山本	成男	他	96名
兵庫	栗田	耕太郎	他	209名
奈良	朝井	啓祐	他	92名

滋賀	節木	建治	他	55名
和歌山	東出	精宏	他	184名
鳥取	前田	輝彦	他	72名
鳥根	矢野	和彦	他	127名
岡山	植月	克明	他	318名
広島	曾根	田一利	他	312名
山口	末永	和義	他	203名
徳島	西岡	誠	他	141名
香川	堀川	哲	他	95名
愛媛	田鍋	清	他	245名
高知	岩井	司	他	139名
長崎	田添	満徳	他	140名
福岡	植村	伸一	他	145名
大分	渡邊	隆	他	209名
佐賀	松原	秀彦	他	61名
熊本	西浦	健輔	他	133名
宮崎	黒木	弘	他	114名
鹿児島	竹ノ内	正信	他	178名
沖縄	諸喜	田智	他	29名

**優良婦人消防隊（表彰旗） 12隊**

県別	隊名
岩手	奥州市胆沢区婦人消防協力隊
宮城	白石市婦人消防隊
山形	新庄市婦人防火協力隊
神奈川	池上婦人消防隊
茨城	さわきこども園女性消防隊
栃木	下野市女性消防隊

福井	宮崎西地区女性消防隊
滋賀	永田婦人消防隊
岡山	久米南町婦人消防隊
香川	土庄町防火婦人消防隊
高知	仁淀川町大崎婦人消防隊
宮崎	延岡市女性消防隊

**優良婦人消防隊員（功績章） 13名**

都道府県名	氏名
岩手	三浦康子
宮城	高橋則子
宮城	佐藤千賀子
神奈川	室伏晴美
栃木	葛貫郁子
愛知	広浦鈴子
愛知	内藤菊代
奈良	中畑良子
滋賀	藤上佐千子
和歌山	大根田紀代子
岡山	中田美代子
香川	中条明美
高知	田村貴美子

**都道府県消防協会等役職員永年勤続者表彰受章者 2名**

所属	氏名
日本消防協会	鈴木教民
福岡	江頭美幸

# 都道府県消防協会事務局長・共済会支部事務長会議の開催と第25回全国消防操法大会の抽選会を実施

(公財)日本消防協会・(生協)全日本消防人共済会

平成28年3月1日(火)、午後1時30分から日本消防会館5階大会議室において、都道府県消防協会事務局長・共済会支部事務長会議が開催されました。

会議は、秋本会長のあいさつのあと、総務省消防庁 山口総務課長より、平成28年度消防庁予算(案)の概要、消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する消防庁の取組み等について説明がありました。

続いて各部から平成28年度事業案の説明がありました。

会議終了後、平成28年度に実施されます第25回全国消防操法大会の出場順位の抽選会が行われました。

抽選結果は以下のとおりです。

## 第25回全国消防操法大会 出場順

出場順	コース	ポンプ車の部	小型ポンプの部
1		石川県	静岡県
2		山口県	三重県
3		岐阜県	茨城県
4		東京都	福岡県
5		青森県	沖縄県
6		広島県	栃木県
7		奈良県	北海道
8		群馬県	埼玉県
9		山梨県	高知県
10		鹿児島県	福井県
11		滋賀県	長野県
12		宮城県	徳島県
13		千葉県	宮崎県
14		兵庫県	熊本県
15		福島県	鳥取県
16		島根県	山形県
17		新潟県	長崎県
18		岡山県	富山県
19		岩手県	香川県
20		佐賀県	秋田県
21		愛知県	大阪府
22		長野県	神奈川県
23		大分県	和歌山県
24		京都府	
25		愛媛県	

※ポンプ車の部の出場順については、奇数が第1コース・偶数が第2コース



都道府県事務局長・共済会支部事務長会議



第25回全国消防操法大会出場順抽選会

# 消防団防災学習・災害活動車両の活用事例

(公財)日本消防協会

日本消防協会では、消防団を中核とした地域の総合的な防災力の充実強化を図ることを目的に、「消防団防災学習・災害活動車両」を製作し、日本宝くじ協会のご支援を得て、平成26年度から全国の消防団に交付しています。

この車両は、防災訓練等への取組を支援するため、平時は地域住民、子供たち、事業所等の防災学習や防災指導用として活用し、災害時には緊急車両として消火・救助資機材等の搬送や現場活動に活用できるものです。

平成27年度に交付した消防団の活用事例をご紹介します。



※第21回全国女性消防団員活性化佐賀大会における展示

消防団名：北海道 北留萌消防組合遠別町消防団

## 1 題名

防火管理者連絡協議会・危険物安全協会合同防火研修

## 2 消防団防災学習・災害活動車両を活用した防災訓練等について

消防団防災学習・災害活動車の資機材を活用し、遠別支部の防火管理者連絡協議会・危険物安全協会合同防火研修を実施しました。初期消火装置、煙体験ハウスを体験することにより、より実践的な訓練となり防火意識の高揚を図ることができました。

## 3 特記事項（訓練の規模や内容、この車両を活用するにあたって工夫したことなど。）

冬期間のため積雪のなか一部を消防庁舎車庫内で実施しました。



初期消火訓練



煙体験ハウスによる煙体験

<b>消防団名：埼玉県 戸田市消防団</b>
1 題名
住宅用火災警報器の重要性
2 消防団防災学習・災害活動車両を活用した防災訓練等について
消防出初式終了後、見学者にアナウンスし、天ぶら油火災実験装置を使用して住宅用火災警報器の重要性と水をかけたときの状況を説明しました。また、初期消火装置を使い、消火器の使い方や煙体験ハウスを体験することにより、火災時に発生した煙の中の避難方法を説明しました。
3 特記事項（訓練の規模や内容この車両を活用するにあたった工夫したことなど）
「防災学習・災害活動車両」の豊富な資機材を活用して、地域の人々に防災意識を高めてもらえるよう活動の場を広げていきたいと考えています。



天ぶら油実験装置の模擬火災



煙体験ハウスによる煙体験

<b>消防団名：長野県 須坂市消防団</b>
1 題名
消防団防災学習車・災害活動車両積載資機材習熟訓練
2 消防団防災学習・災害活動車両を活用した防災訓練等について
団員に資機材の取扱い講習を実施し、それぞれの資機材の使い方や、設営方法を学んでいただき、正しく指導できるよう訓練を行いました。さらに今後は、春の火災予防運動期間中に消防団、消防署及び一般企業を交えた合同の消防訓練に車両で出向し、防災指導資機材（てんぶら油火災実験装置）を使用し、火災危険の学習及び予防の学習を実施する予定です。
3 特記事項（訓練の規模や内容この車両を活用するにあたった工夫したことなど）
各分団の幹部が習熟訓練を行い、その後、所属分団内で周知しています。



初期消火装置取扱い



煙体験ハウス取扱い

消防団名：石川県 小松市消防団

1 題名

幼児防災教室

2 消防団防災学習・災害活動車両を活用した防災訓練等について

女性消防団員が市内保育園を対象に、幼児期における防火思想の普及を目的に「幼児防災教室」を行っています。天ぶら油実験装置では、実際に天ぶら油に火がつく瞬間を見ていただき、火の怖さや火が出る仕組みについて学んでいただきました。改めて火の怖さを認識したという意見もあり、大変有意義な訓練となりました。

3 特記事項（訓練の規模や内容この車両を活用するにあたった工夫したことなど。）

天ぶら油実験で火の怖さを体験し、次に初期消火実験装置で火を消すという指導の流れを行いました。



天ぶら油火災実験



保育士による初期消火訓練

消防団名：兵庫県 南あわじ市消防団

1 題名

建物火災時の積載資機材を使用した団員の安全管理

2 消防団防災学習・災害活動車両を活用した防災訓練等について

建物火災により消防団防災学習・災害活動車で出勤しました。現場には車両で近づくことは出来ませんでしたが、投光器及び発電機を使用して、火災現場での団員の安全管理に努めることが出来ました。

3 特記事項（訓練の規模や内容この車両を活用するにあたった工夫したことなど。）

バルーン投光器は360度の明るさを維持できるため、団員の安全管理を図ることができ、併せて活動環境の改善ができました。



投光器を使用して残火処理



投光器使用状況

消防団名：広島県 廿日市市消防団

1 題名

市民センターでの子供向けイベントにおける防災訓練

2 消防団防災学習・災害活動車両を活用した防災訓練等について

平成 28 年 2 月 7 日に市民センターでのイベントにおいて防災訓練指導を実施しました。子供向けのイベントであったため、たくさんの親子連れに訓練に参加していただき、電磁調理器などの普及により直火を見る機会が少ない子供たちにとって、油火災の水による消火実験や燃え盛る炎に向けての初期消火訓練はとても良い体験になったと好評でした。

3 特記事項（訓練の規模や内容この車両を活用するにあたった工夫したことなど）

今後も各種イベントに積極的に参加し、防火思想の普及啓発に努めたいと考えます。



水消火器を使用した消火体験



天ぶら油実験装置による展示

消防団名：佐賀県 武雄市消防団

1 題名

消防団員における消防団防災学習・災害活動車両の機材取扱い習得訓練

2 消防団防災学習・災害活動車両を活用した防災訓練等について

消防団防災学習・災害活動車両の配備が終わり、実際に訓練計画を組んでいく際において、各分団幹部に対し、機器等の取扱い説明を行う必要があり、正副団長・正副分団長に機器取扱い説明を行った。今後は、住民の防災訓練の際に各正副分団長が指導者の立場で、団員、住民を指導してもらうようにしています。

3 特記事項（訓練の規模や内容この車両を活用するにあたった工夫したことなど）

平成 28 年 3 月 6 日に北方町防災訓練（消防団、住民参加）、平成 28 年 9 月 4 日（予定）に武雄市総合防災訓練（朝日町、橘町）、この他、各分団に車両、資機材を活用した訓練を行っていただき、消防団員訓練のために活用する予定です。



初期消火訓練



煙体験ハウスによる煙体験



## 「地域防災力のかなめ」



笛吹市消防団 団長 土屋 淳

### 1 笛吹市の紹介

平成16年10月12日、石和町、御坂町、一宮町、八代町、春日居町、境川村の5町1村が合併し、笛吹市が誕生しました。さらに、平成18年8月1日に芦川村を編入合併し、現在の笛吹市となりました。

笛吹市は果樹栽培に適した土地で、日本有数の果樹地帯であり、特に桃・ぶどうは栽培面積、収穫量、出荷量いずれも全国市町村の中で一位を誇っており、果樹園に囲まれた特色ある農村景観、ワイナリーや観光農園等の地場産業など、名実ともに「桃・ぶどう日本一の郷」として歩んできました。



日本一桃源郷「笛吹市」

また、全国屈指の温泉郷である石和温泉、春日居温泉は、山梨県の観光宿泊拠点として四季を通じて多くの観光客を迎え入れており、桜並木が続く温泉街・恵まれた温泉資源を活用した公営温泉施設や足湯広場は、市民や観光客の癒しの場、憩いの場として親しまれています。

また、春の「桃源郷春まつり」、「桃の里マラソン大会」、「川中島合戦戦国絵巻」、「すずらんの里祭り」、「笈形焼き」、夏の「大文字焼き」、「笛吹川石和鶉飼」、「石和温泉花火大会」など、季節を彩る祭り・イベントが毎年行われ、多くの人々が訪れています。



川中島合戦戦国絵巻



石和温泉花火大会

### 2 笛吹市消防団の紹介

前述の町村合併に伴い、消防団も体制を維持しながら新たに笛吹市消防団として生まれ変わりました。

1,804名を条例定数として、現在は7分団、89部隊で組織し、地域住民の安心安全を見守っています。それぞれ車輛・詰所を有し、

老朽化に伴うものについては、機械器具はもちろん、車輛・詰所ともに入れ替えや建替えを行っている状況です。

主な装備としては、消防水そう車18台、ポンプ車19台、小型動力ポンプ付積載車63台、投光器搭載車2台、指揮車8台を保有し、各種訓練や消火活動等に当たっています。

### 3 笛吹市消防団の活動

主な活動は、年始の出初式から始まり、春の火災予防運動週間には、笛吹市消防本部と合同で消防車両による市内一周防火広報パレードを行い、秋の火災予防運動週間には、各分団ごとに消防車両10台で管轄区域内を広報放送しながら啓発活動をしています。

また、災害現場における消防署との連携強化を図ることを目的に、定期的に、合同訓練及び分団単位の訓練に消防職員を講師として招き指導いただいています。その結果、消防署員と当該地域の分団員とが互いに顔の見える関係が構築でき、有事の際の意思疎通が図られ、被害の軽減に大きく寄与しています。

夏季と冬季には、笛吹警察署と連携し、夏季は果樹盗難パトロール、冬季は歳末防火防犯診断と題し、各地域のパトロールを行っています。

毎年、市内各地で実施される防災訓練において、自主防災組織と連携して各地域に設置されている消火栓や消火器を活用した消火訓練をはじめ、避難誘導訓練などの実効性のある訓練を積極的に行い、地域住民への指導を行っています。



消防署員指導による水防訓練



警察署と連携した果樹盗難パトロール出発式

### 4 団員確保に向けた取り組み

消防団協力事業所表示制度の導入をはじめ、笛吹市のイメージキャラクター「フッキー」を消防団広報隊長として特別団員に任命し、各式典や行事に出動することによって、消防団のイメージを和らげ、市民からの消防団に対する親しみや理解を増やすことで団員確保に繋げています。

また、平成28年4月からは女性消防隊の設立や、団員の自動車運転免許取得費補助事業などの団員に対するサポート事業でも団員確保に繋がればと考えています。



「フッキー」特別団員任命式

### 5 おわりに

近年、全国各地で異常気象などにより地域住民の生命、財産を脅かす災害が多数発生しております。消防団の任務は火災の予防・警戒・消火を行うだけでなく、地震や風水害など各種災害における被害の軽減を図るなど広範囲に及ぶ活動が求められます。予測しがたい自然災害等が発生した時には、即座に対応する地域に根付いた消防団の活動は必要不可欠であり、地域防災力の要であると感じます。

今後も郷土愛とその消防精神を胸に刻み、笛吹市消防団員であることに誇りを持ち、これからも安全安心な地域づくりと地域住民からの信頼と親しみが持てる消防団を目指して日々努力してまいります。



## 「自分たちの地域は、 自分たちで守る」



津南町消防団 団長 大島 則雄

### 1 津南町の紹介

津南町は、新潟県の最南端に位置し、長野県と境を接しています。町の南西から北東に流れる信濃川と、これに合流する志久見川・中津川・清津川の河川に沿って雄大な河岸段丘が形成されています。冬期間が長く、日本有数の豪雪地帯である一方、夏は北西の涼風に恵まれ、高原性のさわやかな気候が続きます。

津南町一帯は、人々が先史時代から河岸段丘を利用して生活を営み、文化を築いてきたことが伺われ、町内各地に縄文時代の遺跡が見受けられます。

津南町は、面積が170.21k㎡、人口が約10,100人の緑豊かな町で、昭和30年1月1日に6か村が合併して誕生し、平成の大合併の

際には、隣接する十日町市との合併構想もありましたが、住民投票の結果、自立を選択し、現在に至っております。

### 2 津南町消防団の概要

津南町消防団は、昭和30年の町制施行と同時に誕生しました。

平成27年4月1日現在の構成は、団長1人、副団長2人、訓練・技術・予防の各専門分団長3人、女性団員12人の団本部を置き、町の中心部に本部分団を、旧村単位に分団を置いて、計7分団、32部、63班で編成し、条例定数590人のところ総勢572人で消防団活動に精励しております。

津南町においても、過疎・少子高齢化の影響で、消防団員の確保が難しくなっております。そのため、一緒に地区支会を構成する十日町市消防団と連携をとりながら、平成26年度に第3次消防団再編整備計画を策定し、消防団の部・班の再編成や装備充実強化と団員確保を図るとともに女性の入団も積極的に進めております。



津南町河岸段丘花火の様子



消防演習全団員整列完了

### 3 消防団の活動

津南町消防団では、各種災害の中で「自ら（又は地域で）防げる災害は自ら（又は地域で）防ぐ」ということで、火災予防広報や訓練を通年事業として活動しております。春と秋の火災予防運動においては、消防車両による防火広報、女性消防団員と消防職員が協力して実施する、保育園での火災予防教育、役場職員も同行して実施する、一人暮らしのお年寄り宅を訪問しての火災予防指導等の活動に取り組んでおります。

また、秋の消防演習は、町の防災訓練と連携し、各分団地域を輪番制で実施しております。消防出初式は、班長以上の幹部と女性部が参加して実施しております。

津南町は、隣接の長野県栄村と地政学的にも関係が深く、昔から親戚関係も多い地域であるため、県境を越えて相互の応援協定を結び、交流活動を毎年行っております。

東日本大震災が発生した平成23年3月11日の翌朝（3月12日）には、長野県栄村との県境付近を

震源とする長野県北部地震が発生し、当町も甚大な被害を受けましたが、被害を受けた地区は限定的でありました。震央となった栄村は、被害が広範囲にわたり、全村避難という状況であったため、津南町消防団では出動できる団員を選抜し、応援活動を行いました。

そのほか、隣接地区における火災や山菜採りの行方不明者の捜索などにおいても、津南町と栄村の両消防団がお互いに連携を深めて活動しております。

### 4 おわりに

最近では、甚大な被害をもたらす災害がいつ?どこで?起こるか分からない状況にあり、地域住民も我々消防団員の活動に対して大きな期待を寄せております。「自分たちの地域は、自分たちで守る」を合い言葉に、行政や地域の防災組織と連携を図りながら、被害を軽減し「安心・安全」で暮らしやすい津南町となるように、日頃から火災予防と防災教育や自らの訓練等に取り組み、地域のために活動してまいります。



放水訓練



倒壊家屋救出訓練



# 「『神話とたたら』の里」 奥出雲 ～住民とともに～」



奥出雲町消防団 団長 安部 正教

## 1 奥出雲町の紹介

奥出雲町は島根県の東南端に位置し、中国山地の嶺を隔て広島県と鳥取県に接する、神話に名高い斐伊川の源流域にあります。奥出雲の地は、古事記、日本書紀の八岐大蛇（ヤマタノオロチ）退治や、素戔鳴尊（スサノオノミコト）が降臨したと伝えられる出雲神話発祥の地であり、古くから「たたら」製鉄で栄え、今でも世界で唯一、古来からの「たたら」操業を行い日本刀の原料となる「玉鋼（タマハガネ）」を生産しています。

## 2 奥出雲町消防団の沿革

奥出雲町消防団は、平成17年3月31日仁多郡二町（仁多町・横田町）の合併と同時に団員数671名（条例定数）1本部9分団とし、装備としては消防ポンプ自動車12台、小型動力ポンプ付普通積載車19台、小型動力ポンプ付軽積載車17台、指揮広報車1台、指令車2台をもって発足しました。その後、組織再編を実施し団員数615名（条例定数）で活動しています。また、旧二町消防団は各々、全国消防操法大会には2回出場し、消防団最高の榮譽である特別表彰



全国消防操法大会

「まとい」を受章しています。

新たに奥出雲町消防団が発足してからは、平成26年開催の第24回全国消防操法大会に念願の初出場を果たし、小型ポンプ部門で準優勝（第3位）の成績をおさめました。

## 3 奥出雲町消防団の活動

奥出雲町消防団の活動は毎年1月1日から始動します。最初となる消防出初め式は、式典の際、団旗が「我ら消防」の行進曲とともに入場し雰囲気が高まります。終了後、全団員が分列行進し、その後、斐伊川に一齐放水を行い一年が平穏で無火災である事を祈ります。厳しい冬も終わり春が到来します。4月には、春の火災予防運動

がスタートします。

秋は、11月9日に近い日曜日の初日に、「防火宣伝パレード」を行い、期間中には模擬火災訓練や各家庭への防火診断等を実施しています。5月には幹部訓練を行い幹部としての資質と協調力の向上を目指します。そして、6月は、夏期総合訓練並びに奥出雲町消防団消防操法大会を開催しています。

発足五周年と十周年の際には夏期総合特別訓練と称し、地震災害を想定した住民避難訓練並びに消防演習を実施しました。重要な訓練の一つとして捉えており今後も計画していきます。また、島根県消防操法大会へは、毎回両部門に出場していますが島根県大会出場は、住民の皆さんとの絆が深まる絶好の機会と捉えています。平成24年、第56回島根県消防操法大会を当町で開催しました。地元開催で4分団が出場した事もあり町内は大きな盛り上がりを見せ団員確保など消防団への理解が一層増す事

になったと思っています。今後とも県消防操法大会出場を通じた住民の皆さんとの交流を大切にしたいと思います。

また、島根県消防学校主催の教養訓練に毎年参加しています。そして、直近二カ年でD I G訓練を全団員対象に分団毎に実施しました。今後は、住民の皆さんに参画して頂くD I G訓練を予定しています。

#### 4 終わりに

本町消防団も今年1月1日より機能別消防団員制度を導入しました。また、企業の協力も不可欠であり消防団協力事業所表示制度もすでに導入頂いています。

消防団を取り巻く環境は依然として厳しいですが如何なる状況下になろうとも、消防団の重要性は不変であり自らの地域は自ら守るという郷土愛護の精神を尊重し崇高な消防使命を果たしていきたいと思ひます。住民とともに！



島根県消防操法大会



## シンフォニー（長崎県） 「西の最北端 躍動する仲間」<sup>とも</sup>

平戸市消防団 部長  
小山 きよ美

平戸市は、人口約40,000人。九州の西、長崎県の北西端に位置し、平戸島、生月島、大島、度島、高島の有人島及び九州本土北西部の沿岸部に位置する田平と周辺の多数の島々で構成されています。気候は、周囲のほとんどが海に囲まれており、対馬暖流と季節風の影響を受け、海洋性の温暖な気候です。また、昨年のふるさと納税では、海の幸、山の幸が豊富に採れる土地柄を活かし、日本一に輝いた活気のある地域でもあります。本市は、平成17年10月に合併し、新平戸市となり、昨年合併10周年を迎えました。

この平戸市に女性消防団を結成して8年目、「こんにちは、久しぶり」「こんにちは」元気な言葉が交わされる。想いも変わらず笑顔がたえない明るい集団です。活動では、離島を含んでいることもあり、行事に全員が結集するのは難しい状況にあります。女性消防団の活動の一つでもある消防出初式では、来賓者の接待、式典進行係、表彰係を任されています。なかでも式典進行係のアナウンスは女性の声が鳴り響くので良いものです。最近では、女性団員の皆さんが慣れてきて、堂々たるものです。また、家庭の防火診断では、消防職員と同行



放水訓練



消防団員加入パン（救急パン）

し、今回は新たに消防団員の加入促進活動の一環として、女性消防団員の手作りで消防団員加入パン（救急パン）を作成し、入団の呼びかけを行ないたいと思っています。さらに、学校や職場、あらゆる地域を廻り救命講習の指導を行ないます。その他の活動としては、春・秋の防火パレードや秋季訓練にも参加します。訓練では、男性団員と共に訓練を行い、とても大変ではありますが、やりがいがあり、良い体験をすることが出来ます。

女性消防団員の中には、子育ての真っ最中の方や痴呆症を抱えた家族の介護で大変な方、共稼ぎで毎日帰れば家事に追われる方もいますが、皆消防団の行事には、出来る限り協力してくれます。自分自身を振り返ってみても、消防団に入って良かったと

思っています。今年65歳で定年を迎えますが、日頃の訓練のおかげもあり、身体は俊敏に反応することが出来ます。身体だけではありません。知識も技も付けてもらえます。これは自身をより高くしてくれます。「当たり前のことが当たり前に動ける」素晴らしいことでしょう。皆さん、消防団に入ってみませんか。自分の生命、家族の生命を守るために、それがゆくゆくは町内・地域の為に役に立つのだと思います。

自然災害は何時どこで発生するか分かりません。「備えあれば憂いなし」という言葉があるように、これからは、自分の町内・地域の人たちと密に接していきたいと思います。私たちの地域にも積極的に救命講習を行うと共に、防災知識を高める講座を作っていきたいと思っています。

皆さんの勇気ある一歩を待っています。  
消防団に入って下さいませんか。



救命訓練

# 全国消防殉職者遺族会理事会を開催

全国消防殉職者遺族会

平成28年1月29日、午前11時から、日本消防会館5階第2会議室で「全国消防殉職者遺族会理事会」が開催されました。

## ◇ 平成27年度第2回理事会

### 1 議 事

平成28年度事業計画及び収支予算

### 2 その他

消防育英会奨学生の状況について

議事については、異議なく承認されました。

理事会閉会后、屋上の全国消防殉職者慰霊碑を参拝しました。



全国消防殉職者遺族会理事会での会長挨拶



全国消防殉職者遺族会理事の参拝後の記念撮影  
(日本消防会館 屋上 慰霊碑前)

# 消防育英会定時理事会を開催

(公財)消防育英会

平成28年2月24日、午後2時から、日本消防会館7階役員室で「消防育英会定時理事会」が開催されました。秋本理事長の議事進行により各議案について原案のとおり承認されました。

## ◇ 平成27年度消防育英会定時理事会

### 1 議事

第1号議案 平成28年度事業計画及び収支予算について

第2号議案 評議員会の招集について

第3号議案 (公財)JK A補助事業の事業完了時の自己評価について

### 2 報告事項

奨学生及び奨学金等の状況について

消防育英会支援自動販売機について

議事については、異議なく承認されました。



# 平成27年度少年消防クラブ指導者交流会を開催

少年消防クラブ活性化推進会議

少年消防クラブ活性化推進会議(事務局：(一財)日本防火・防災協会及び(公財)日本消防協会)では、2月20日(土)及び21日(日)の2日間、モデル少年消防クラブの指導者及びこれまでの少年消防クラブ交流会参加クラブの指導者を対象に「少年消防クラブ指導者交流会」を東京都内で開催しました。

指導者交流会には、全国の少年消防クラブ指導者76名が参加し、消防庁地域防災室木村宗敬室長の講演、クラブ活動の事例発表、消防科学総合センター黒田洋司研究開発部長による災害図上訓練(防災クロスロード)の演習、常葉大学大学院環境防災研究科長重川希志依教授の講演等が行われました。

交流会で得られた情報や知識、ネットワークをそれぞれの地域に持ち帰って、今後の少年消防クラブ運営や活動の一層の充実が図られることを期待しています。



少年消防クラブ活性化推進会議 秋本委員長

## 【概要】

### 1 2月20日(土)

活性化推進会議秋本委員長の主催者挨拶、消防庁木村地域防災室長及び文部科学省和田勝行学校健康教育・食育課長の挨拶後、事務局から「少年消防クラブ活性化推進会議の来年度事業」と「少年消防クラブ関連事業」についての報告を行いました。その後、木村室長による「地域防災力の充実強化」の講演、そして、モデルクラブを含む6つの少年消防クラブからの活動事例発表が行われました。



消防庁 木村地域防災室長



文部科学省 和田学校健康教育・食育課長



消防庁 木村地域防災室長による講演

○活動事例発表



五戸高校少年消防クラブ（五戸町）  
田中氏



浦安市少年消防団（浦安市）  
亀山氏



豊田市立竜神中学校少年消防クラブ  
（豊田市）：杉浦氏



尼崎市少年消防クラブ（尼崎市）  
金谷氏



くすばし少年消防クラブ（北九州市）  
浦濱氏



三郷市少年消防クラブ（三郷市）  
五十嵐氏

2 2月21日(日)

○災害図上訓練(防災クロスロード)：黒田講師による演習

「クロスロード」とは、英語で「分かれ道」を意味しています。阪神・淡路大震災の体験を基に作成されており、災害対応を自らの問題として考え、また、様々な意見や価値観を参加者同士共有することを目的としたゲームです。各班に分かれ、活発に議論・意見交換が行われました。



黒田講師



意見交換

○「次の世代に託す安全・安心まちづくり」：重川講師による講演

3つの目的(いのちを守る、いのちを守った人たちの生活を守る、人と地域の再建・復興)、3つの対策(自然現象の理解、被害の抑止、被害の軽減)に沿って、阪神・淡路大震災や東日本大震災などの活動事例も踏まえ、わかりやすく説得力のあるご講演をいただきました。



重川講師

# 消防団を中核とした地域防災力充実強化大会の実施結果

総務省消防庁地域防災室

平成25年12月に成立した「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」を踏まえ、平成27年度消防庁事業として広島県及び茨城県において「消防団を中核とした地域防災力充実強化大会」を開催しました。

本大会は、公益財団法人日本消防協会の主催により平成26年8月に開催された同大会を受け、地域住民や自主防災組織、事業者、教育、医療・福祉等、様々な関係者が連携を図り、地域防災力の充実強化の重要性についての理解をさらに促進することを目的としたものです。

## 「広島大会」

「消防団を中核とした地域防災力充実強化大会in広島2015」

開催日：平成27年11月30日（月）

場所：広島国際会議場フェニックスホール

参加人数：1,500人



開会式の様子

開会に先立ち、広島市消防音楽隊によるオープニング演奏があり、会場を盛り上げました。開会式では、森屋総務大臣政務官、湯崎広島県知事、松井広島市長からそれぞれ主催者挨拶があり、続いて、多数の来賓を代表して公益財団法人日本消防協会の秋本会長から御挨拶いただきました。そして、「大規模災害と地域防災力」と題して、神戸大学名誉教授の室崎益輝氏から基調講演をいただきました。その後、大会参加団体によって、日頃地域で行っている活動の事例発表や呉市消防団によるはしご乗り演技が行われました。最後に、山口大学大学院准教授の瀧本浩一氏に大会を総括していただき、閉会となりました。



室崎益輝氏



瀧本浩一氏



呉市消防団はしご隊による演技



広島県府中町少年少女消防クラブの発表

## 【参加団体】

- ① 「女性消防団員による避難所での支援活動」  
(広島市安佐南消防団女性隊)
- ② 「広島市土砂災害以降の自主防災活動」  
(広島市安佐北区大林地区連合自治会)
- ③ 「災害時の地域医療」(広島県医師会)
- ④ 「はしご乗り演技」(呉市消防団はしご隊)
- ⑤ 「マツダ株式会社への地域防災への貢献活動」(マツダ株式会社)
- ⑥ 「大学における地域防災への取り組み」(広島国際大学)
- ⑦ 「消防団・DMAT・DPAT合同訓練」  
(奈良市消防団・厚生労働省委託事業DPAT事務局)
- ⑧ 「少年少女消防クラブの防火防災活動」  
(広島県府中町少年少女消防クラブ)

## 《茨城大会》

「消防団を中核とした地域防災力充実強化大会in茨城2016」

開催日：平成28年1月29日（金）

場所：つくば国際会議場大ホール

参加人数：1,100人

開会に先立ち、つくば市消防音楽隊によるオープニング演奏があり、会場を盛り上げました。開会式では、土屋総務副大臣、橋本茨城県知事、市原つくば市長からそれぞれ主催者挨拶があり、続いて、多数の来賓を代表して公益財団法人日本消防協会の秋本会長から御挨拶いただきました。そして、「防災の原点は『地域』」と題して、引き続き秋本会長から基調講演をいただきました。その後、大会参加団体によって、日頃地域で行っている活動の事例発表やつくば市消防団による火災予防啓発劇が行われました。また、女優の羽田美智子氏から関東・東北豪雨時のボランティア活動などについてお話をうかがいました。

最後に、株式会社防災&情報研究所代表の高梨成子氏に大会を総括していただき、閉会となりました。



高知県立大学による発表



羽田美智子さんによるトークショー



土屋副大臣による主催者挨拶



高梨成子氏による総括



秋本会長による基調講演

### 【参加団体】

- ① 「防災活動はまちづくり活動の評価～地域防災力の充実と強化のために～」  
(石川県加賀市三木地区まちづくり推進協議会)
- ② 「未災地ツアーの取組みと地域防災」  
(高知県立大学イケあい地域災害学生ボランティアセンター)
- ③ 「大学における地域防災への取組」  
(千葉市消防団第3分団5部大蔵寺淑徳大学学生消防隊)
- ④ 「火災予防啓発劇 自分のからだは自分で守ろう」  
(つくば市消防団)
- ⑤ 「女性防火クラブの取組事例」(水戸市女性防火クラブ連合会)
- ⑥ 「関東・東北豪雨におけるJMAT茨城活動について」(茨城県医師会)
- ⑦ 「関東・東北豪雨災害を振り返って」(常総市消防団)

#### 問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部地域防災室 吉田  
TEL: 03-5253-7561

## 「第22回全国女性消防操法大会に 出場して」

栃木県小山市女性消防隊 隊長 齋藤 智美



小山市は、東京圏から60キロメートルに位置し、新幹線でわずか42分の鉄道・国道ともに交差する交通の要衝地として発展し、県内第2位の人口を誇る栃木県の中核都市です。2012年に世界のラムサール条約湿地に登録されたラムサール遊水地をはじめとする豊かな「自然」にも囲まれ、2010年世界のユネスコ無形文化遺産に登録された本場結城紬をはじめとする「文化と歴史」を有する町でもあります。また、関ヶ原の戦いの際に、かの有名な徳川家康によって開かれた天下分け目の軍議「小山評定」の地でもあり、「開運のまち」としても有名です。ぜひ小山市にお越しいただき、自然・歴史・文化にあふれた町をお楽しみください。

私達小山市女性消防隊は、第22回全国女性消防操法大会に出場にあたり、小山市役所の若手女性職員を中心に平成26年10月に11名で結成されました。隊員は市の職員ではありますが、消防操法の経験はなく全くの初心者ばかりでした。消防操法のイロハもわからなく誰もが不安な状況でした。私自身も、前回大会の映像を初めて拝見させていただいたときは、「自分たちがこのようなきびきびとした動きができるようになるのだろうか」と不安で一杯になりました。

訓練は冬の時期から始まり、体力づくりをしつつ、礼式の訓練から教えていただきました。礼式は操法の基本となる動きですが、一挙一動に機敏さと正確さが求められ、

手の先・足の先まで気にしなくてはいけないことにとても苦労しました。日頃の生活では行わない動きであり、当初はとてもぎこちない動きとなっていました。訓練を重ねるにつれて、体に身についてくるようになりました。

春ごろからポンプ操法の訓練を重ねてきました。ホースの展張やポンプの扱い方など個々に教えていただきました。初めて隊員だけで操法の通しをやったときは、指導員の方の見本との歴然とした違いとあまりのタイムの遅さに、「10月の大会本番までに自分たちの操法はまともなものになるのだろうか」ととても不安になりました。しかし、訓練を重ねることしか、不安は消すことはできないと隊員心をひとつにして訓練に励みました。操法訓練の当初は、指導していただいたとおりに動くことができないことも多く、出来ないことが歯がゆく悔しいこともありました。そんな時も指導員の方々は、マンツーマンで各番員に丁寧に指導してくださいました。そのおかげ各隊員の技術も着実に上達していきました。

前々回大会県代表として出場した那須烏山市の消防団員との交流や、様々な場面でのお披露目の機会での多くの方の応援を受け、私たちの意識も少しずつ変わり、より能動的に訓練をするようになりました。操法の向上について隊員同士で話し合うようにもなりました。「もっとタイムを上げるた



防隊の1コースのみで、この上ない注目を浴びる状況でした。しかし、操法メンバーはそんな状況をもともせず、一旦操法が開始されれば訓練以上の成果を発揮し、訓練でも出したことのない「48.60秒」というタイムをたたき出しました。操法が終わった後は、操法メンバー・リザーブメンバーにかかわらず、やり切った安堵感

めにはどうしたらいいのか」や、「自分たちに不足している部分は何なのか」などと話し合い、練習時間も増やしていくようになりました。隊員の中には自主練習に励むメンバーもいました。タイムがなかなか縮まらない時期もありましたが、そんな時も11人で助け合い・話し合いながら訓練に励みました。

指導員の方々の懇切丁寧な指導や、同じ操法大会に出場する他県の女性消防団との合同練習をさせていただいたおかげもあり、秋に入る直前にはよいタイムを出せるようになってきました。しかし当日は一回しかないということもあり、当日までどの隊員も不安と緊張をかかえていましたが、「11人心ひとつに頑張っていこう」と一致団結し大会直前まで誰一人かけることなく訓練を積み重ねていきました。

大会当日も多くの方が大会会場へと応援に足を運んでくださいました。出場順が「大トリ」であり、競技の実施は私たち小山市女性消

と達成感にも満ち溢れ、皆で肩を抱えて喜びあいました。そして大会準優勝という栄誉もいただくことができました。

今回の全国操法大会出場までの約1年間で、私達隊員11人は何事にも代えがたい貴重な経験と、訓練をともに乗り越えてきた仲間との一生ものの固い絆を得ることができました。このような機会を与えてくださった消防関係各所の皆様方や、各隊員の職場の方々を始め、ご支援ご協力をくださった多くの方々にこの場をお借りして心から感謝申し上げます。



# 一般公開のお知らせ

総務省消防庁消防研究センター

消防大学校・消防研究センター、日本消防検定協会及び一般財団法人消防科学総合センターでは、平成28年度の科学技術週間にあたり、一般の方々に試験研究施設を公開するとともに、消防用機械器具・消防防災の科学技術に関する研究の展示、実演等を下記のとおり行いますので、皆様お誘い合わせの上、ご来場くださいますようお願い申し上げます。

## 記

### 1 日時

平成28年4月22日（金）

午前10時から午後4時まで 入場無料

### 2 場所

消防大学校・消防研究センター

（東京都調布市深大寺東町4-35-3）

日本消防検定協会

（東京都調布市深大寺東町4-35-16）

※（同一敷地内にあります。）

### 3 公開内容

#### 【消防大学校・消防研究センター】

石油タンク火災の泡消火実験、重油の燃焼実験、可燃性液体火災の消火実験、原因調査室の調査業務の紹介、津波被害現場用の消防車両開発、太陽光発電システム火災時の発電制御技術および消防車両の展示等

#### 【日本消防検定協会】

消火器・屋内消火栓の操作体験、エアゾール式簡易消火具による天ぷら油火災の消火実演、消防用機械器具等の展示と説明等

#### 【消防科学総合センター】

放火対策GIS、スマートフォンを活用した災害応急活動支援システム「多助」、平成27年中に発生した主な災害と東北の復興状況

### 4 交通機関

- (1) JR中央線吉祥寺駅南口下車、「深大寺」「野ヶ谷」「調布駅北口」行きバス（6番乗り場）で「消防大学前」下車
- (2) JR中央線三鷹駅南口下車、「野ヶ谷」行きバス（8番乗り場）で「消防大学前」下車
- (3) 京王線調布駅北口下車、「杏林大学病院」行きバス（14番乗り場）で「東町3丁目」下車、徒歩5分

### 平成27年度一般公開の様子



津波被害現場用の消防車両による訓練



エアゾール式簡易消火具による消火実演



スマートフォンを用いた災害応急活動支援システム

### 5 問い合わせ先

- 消防研究センター 研究企画室  
電話 0422-44-8331（代表）  
ホームページ <http://nrifd.fdma.go.jp/>
- 日本消防検定協会 企画研究部情報管理課  
電話 0422-44-7471（代表）  
ホームページ <http://www.jfeii.or.jp/>
- 一般財団法人 消防科学総合センター総務部  
電話 0422-49-1113（代表）  
ホームページ <http://www.isad.or.jp/>

# 第30回中国消防視察について

(公財)日本消防協会

中国消防視察につきましては、昭和60年4月25日に「日中消防友好協定」を締結し、中国各地の消防機関を視察するとともに友好を深めており、例年、参加者には好評を博しております。

今年30回目を迎える中国消防視察は、別紙の日程によって行います。北京市のほか、今回は江西省の南寧市・桂林市及び上海市を訪問し、中国消防協会等と意見交換をするほか、各地の消防体制、さまざまな災害の事例、具体的な消防活動などについて調査することとしています。

つきましては、ご多忙とは存じますが、貴協会管内の消防関係機関の皆様に対し、この計画を周知して頂き、多くの参加者のご推薦をいただきますよう、よろしくお取り計らい願います。

## 記

### 1 目的

中国各地の消防機関を訪問し、中国消防体制・制度等について調査し、あわせて日中両国消防の交流を深めます。

### 2 参加者

各都道府県消防協会役職員、消防団・本部幹部、消防職・団員および家族、消防団事務担当者等で健康な方。退職・退団者も参加可能。

### 3 訪問先消防機関等

広西省南寧市、桂林龍勝では消防機関を訪問します。

各都市で中国の消防幹部との意見交換等を行います。

中国国内では、中国消防協会の全面的なご協力を頂きます。

### 4 期間

平成28年6月27日(月)～7月4日(月)まで(7泊8日)

### 5 経費

総経費	298,000円 (燃油サーチャージ、諸税込)
-----	-------------------------

※中国滞在中の食費及び調査先の諸経費は含まれています。

※調査期間中、一人部屋を希望される方は追加料金67,200円が必要です。

※国際線ビジネスクラスを希望される方は追加料金134,200円が必要です。

中国国内線ビジネスクラスの追加料金は101,200円です。

なお、経費につきましては、申込締切り後に当協会から請求いたします。

※海外旅行保険加入については担当旅行者から案内いたします。

(例 69歳以下 1億円 保険料12,490円、70歳以上 5千万円 11,560円)

### 6 申込方法と期限

参加申込書を各都道府県消防協会でお取りまとめいただき、**平成28年5月10日(火)まで**に当協会へ提出して下さい。

なお、普段から健康のすぐれない方は、事前に医師とご相談の上、お申込み下さい。

また、参加者が無い場合でも文書(メールを含む)又は電話にてご回答をお願いします。

### 7 取扱旅行者 (前後泊、日本国内航空券、海外旅行保険、羽田空港集合案内等)

株式会社 日本クリエイティブ

TEL: 03-3501-6311 FAX: 03-3503-6301 山口・桑原

8 中国国内視察について問合せ 公益財団法人 日本消防協会 国際部 担当 福地  
TEL 03-3503-3054 FAX 03-3503-1480 E-mail: fukuchi@nissho.or.jp

9 日本国内宿泊等の斡旋

参加申込者には、申込締切り後に旅行業者から次の斡旋について連絡がありますが、必要な方はお申込み下さい。

(1) 前後泊ホテル 東横イン羽田

(2) 宿泊料金シングルルーム1泊(朝食・税・サービス込) 8,700円

10 日本国内線乗り継ぎ

羽田-地方空港の乗り継ぎについては、各自のご手配又は上記担当旅行業者へのご相談をお願いします。

※羽田/伊丹19:20発6,500円、羽田/中部6,500円、羽田/福岡・札幌9,000円(片道)

### 旅のポイントと視察地の見所について

- 1 できる限りの多くの皆さんにご参加いただくことができるよう、今年度から一般の消防団員やそのご家族の方々もご参加いただけるようにしました。
- 2 往復とも全日空で羽田発着です。
- 3 北京飯店やホテルオークラ上海等全行程の宿泊は五つ星ホテルを使用します。
- 4 この時期はPM2.5の心配はまったくありません。また、見どころもいろいろあります。



世界遺産 北京の故宫博物院



上海の外灘



広西省 陽朔の西街



桂林のハイライト 水墨画のような漓江



南寧市郊外 ベトナム国境徳天跨国大瀑布



桂林郊外の少数民族村落 龍勝の棚田



広西省チワン族女性

## 第30回中国消防視察

	日期	時間	摘要	宿泊等
1	6月27日 (月)	07:30 09:25 12:20 16:30 18:00	羽田空港集合 結団式用待合室 全日空 NH961 便にて出発 北京着 第3 2 回日中消防協会定期協議会 会議出席しないグループは故宫博物院視察 中国消防協会歓迎交流会	北京飯店 北京市東城区東長安街33号 ☎: (86-10) 65137766 ☎: (86-10) 65137307 北京1泊
2	6月28日 (火)	09:00 11:35 15:15 17:00 18:00	ホテル出発 中国国際航空 CA1485 便にて出発 (T3) 広西省省都の南寧市国際空港着 ホテル着 広西省チワン族自治区消防協会歓迎交流会	南寧マリオットホテル (南寧萬豪酒店) 南寧市青秀区民族大道 131号 ☎: (86-771) 5366688 ☎: (86-771) 5366699 南寧2泊
3	6月29日 (水)		徳天跨国大瀑布風景区視察 (日帰り) ベトナム国境にある大瀑布 風景区内の緑島行雲、国境マーケットなども	
4	6月30日 (木)	上 午	南寧市消防視察 南寧市視察 高速鉄道にて、南寧-桂林 約2.5時間	
5	7月1日 (金)	09:00 14:00 16:00 18:30	兩岸の奇峰は水墨画のごとく漓江下り (帝景号) (竹江船着場→陽朔) 陽朔下船後、中国南方の伝統的家屋の商店が両側に多く 並んでいます陽朔西街散策 陽朔出発、バスにて桂林へ 桂林市消防との交流会	シェラトン桂林ホテル (桂林喜来登大酒店) 桂林市秀峰区濱江路15号 ☎: (86) (773) 282 5588 ☎: (86) (773) 282 5598
6	7月2日 (土)		少数民族村にて農村部消防視察 桂林の北東約90kmの龍勝少数民族自治県へ、海拔300 ~1100mの高さ、中国絶景の一つ-棚田景区視察 金坑紅瑶棚田、黄洛瑶寨長髮村等視察 夕方、バスにて、桂林着 (2時間)	桂林3泊
7	7月3日 (日)	08:20 10:45 12:10 14:20 15:45 18:00 20:30	桂林市内視察 鍾乳洞-芦笛岩 桂林国際空港着 航空便にて、桂林出発 上海浦東国際空港着 上海市内視察 玉仏寺 上海市消防協会歓迎交流会 外灘視察	オークラガーデンホテル上海 (花園飯店) 上海市茂名南路58号 ☎: (86-21) 51013030 ☎: (86-21) 64158866 上海1泊
8	7月4日 (月)	上 午 11:50 13:50 17:40 19:20 ?:	市内視察 豫園 上海虹橋空港着 全日空 NH970 便にて東京羽田へ 東京羽田空港着 羽田発 伊丹へ 羽田発 中部・福岡・札幌へ	オプション 6500円~9000円追加

うちの

# 名物団員



津南町消防団 副団長

山田 龍一



信濃と越後の国境の秋山郷結東温泉にある、露天風呂から四季折々の眺めを楽しめる宿泊施設「萌木の里」で支配人を務める山田副団長は、消防団入団と同時期に「音楽で地域おこし」をしたいと、バンド「ハサンオールスターズ」を結成し、36年目になります。19年前から秋山郷で音楽祭を始め、平成23年からは長野県北部地震の「震災復興ライブ」として、絆を大切に開催しています。メンバーそれぞれが、違った仕事を持っているバンドと消防団は共通する大事なことがあります。それは、「団結と協調と調和」です。これを大切にして、今後も地域のために頑張ってくださいるものと思います。



新潟県

笛吹市消防団 御坂分団 副分団長

水上 兼一



山梨県の甲府盆地東よりに位置する「桃・ぶどう日本一の郷」笛吹市から笛吹市消防団御坂分団水上副分団長を紹介します。

水上副分団長は、仕事と消防団活動をこなしながら、武田信玄が武士の士気を鼓舞するために打たせたといわれる合戦太鼓を継承する「甲斐之國御坂天雷太鼓保存会」に属し、地域のイベントはもとより国内外で年40回以上の演奏活動をして

います。過去には年越しに、当時世界一であった大太鼓(おおだいこ)を打ち、テレビに出演した経歴の持ち主です。

分団内部では、心温まる人柄と類稀なるユーモアのセンスから団員からの信頼も厚く、ムードメーカーとして分団を盛り上げています。

今後も、笛吹市消防団御坂分団をなお一層盛り上げてくれることを期待しています。



山梨県

## 芳倉 勝



奈良県北西部に位置する上牧町で日夜、地域の安全を見守っている芳倉勝分隊長をご紹介します。

芳倉分隊長は、町内で個人商店を営まれています。地域密着のお店ということで、商品の仕入れやガス機器の点検等の際には、常に地域の異変に気を配りながらのパトロールを兼ねて日々を過ごされています。

そのため、火事等が発生した場合は、誰よりも早く現場に駆けつけることができるため、上牧町消防団の中心的な方です。

今後も町の安全安心なまちづくりに貢献して頂けることに期待しております。

## 三島 功丞



日本一の漁獲量を誇る宍道湖のしじみ。その宍道湖で「しじみ漁師」をしながら消防団活動をされる三島さんですが、地元では俊足ランナーとして大変有名です。

各地域のプライドをかけた「島根県地域対抗しおかせ駅伝大会」に出場し、チームの優勝、また個人として最優秀選手賞を見事に勝ち取られました。消防団員としても松江市の消防操法大会で優勝に貢献するなど、持ち前の体力を生かし人一倍熱心に活動をされる三島さんの今後益々の活躍が期待されます。



## 清田 淳子



長崎県のほぼ中央、大村湾に面した自然豊かな町「川棚町」から紹介するのは、女性消防団の清田淳子さんです！

清田さんは、趣味であったお菓子作りを仕事にし、製造から販売までを一人でこなすパワフルな女性です。地元の食材と無添加にこだわり、彼女が作るシフォンケーキは、口の中で溶けそうなくらい繊細な口当たりで、テレビやラジオでも絶賛され人気を集めています☆

消防団では、火災予防や広報誌の作成といった啓発活動の他、応急手当普及員の資格を取得し、活動の幅をさらに広げています。

今後もシフォンケーキのような繊細さと温厚な人柄を武器に、川棚町の安心・安全のため、活躍されることを期待しています。

# 消防団の広場

奈良県

## 「消防団員意識と技能への

## 飽くなき向上心」



上牧町消防団 団長

竹島 成佳



上牧町は奈良県北西部に位置し、おだやかな丘陵地帯が広がるのどかな町です。丘陵地帯を生かした田園風景が広がりバスと電車を乗り継いで大阪の中心部まで1時間以内に行ける立地条件から、住宅開発が進み、一時は人口増加率日本一を記録したことのあるベッドタウンとして発展し、人口は約2万3000人。

消防団員数134名（うち女性消防団員14名）を本部と5つの分団で組織する。

町政運営の方針である「人を守る」を念頭に、

「2万3000人の生命・財産は我々が守るんだ」という使命を胸に活動を行っております。なかでも奈良県広域消防組合西和消防署の指導による夏の夜間基礎訓練は、多くの団員が参加し技能の向上に取り組んでいます。常に体制の強化及び技術の習熟に努め、気持ちを引きしめ、「安全で安心なまちづくり」に一層精進を傾ける所存です。



夜間基礎訓練

平成27年度 全国統一防火標語

「無防備な 心に火災が かくれんぼ」

## 4月の日本消防協会関係行事

4月13日(水)～18日(月) 第8回C T I F女性消防委員会会議(ワルシャワ)

## 編集後記

早いものでもう3月。それぞれの地域ならではの春が感じられる季節だと存じます。今でこそ日本の春は桜がもてはやされていますが、平安時代の頃までさかのぼると、花と言えば桜より梅であったそうです。桜の華やかさには毎年はっとさせられますが、梅の香りや佇まいも格別のものが感じられます。花はそれぞれ美しく、そして人もそれぞれ素晴らしいと、この季節はことさら感じます。

さて、この一年間、機関誌「日本消防」の編集を担当させていただきましたが、皆様のお支えにより何とか任務を果たすことができました。たくさんの心に響くご寄稿を頂き、深く感謝いたします。ありがとうございます。新年度からは編集担当が代りますが、引き続き「日本消防」のご愛読並びにご寄稿をお願い申し上げます。

3月、4月は別れと出会いの季節です。この日本消防協会とともに頑張った研修の仲間もそれぞれの地方へ帰ります。4月からは新たに着任する研修生とともに、引き続き皆さまのお役に立てるよう精一杯頑張りますのでよろしく願いいたします。

結びになりますが、皆様にはご健康にご留意され、それぞれ素晴らしい春をお迎えください。

(M.M)

## お詫びと訂正

日本消防2016年2月号掲載、表紙写真説明の中で市名に誤りがございましたので、関係各位の方々に對しまして深くお詫び申し上げ、訂正させていただきます。

正・・・岐阜県瑞浪市

誤・・・岐阜県瑞穂市

## 購読募集

購読を希望される方は、(公財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2,448円  
(問合せ先) 総務部企画担当 03-3503-1481

## 寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受付しています。 [soumu@nissho.or.jp](mailto:soumu@nissho.or.jp)

月刊「日本消防」第六十九巻第三号  
平成二十八年三月五日印刷  
平成二十八年三月十日発行

編集人 武居 丈二  
発行所 (公財)日本消防協会  
東京都港区虎ノ門二一九十六  
電話 〇三(303)二四八一(代)

印刷所  
千葉県稲毛区山王町一〇二一五  
株式会社白樺写真工芸  
電話 〇四三(423)一一〇二(代)

# 消防団員・消防職員の皆様の火災共済

消防団員  
消防職員  
ならどなたでも  
加入できます

まさかの時お役に立ちます。

風水雪害等共済金付

掛金25口、2,500円 (56%以上の焼損)  
火災共済金375万円のお支払い

## 1500倍補償

### B型火災共済

### 消防団 消防本部

毎に皆で加入

キャンペーン期間中B型火災共済に加入しますと、テントを消防団等に配布します。

(加入者100人以上または、掛金10万円以上が対象)

掛金は、5口500円から5口毎、25口2,500円まで選択できます。

落雷の損害  
にも対応!!

建物と動産の配分は常に4:1とする契約となります。

お申し込みは、所属の消防団担当から都道府県支部(消防協会)へ。



(三方の横幕も付属します。)

お支払  
対象

●火災共済金

火災・落雷・爆発・破裂

●風水雪害等共済金

風災・水災・雪災・車両飛び込み・航空機墜落等

生活協同組合 全日本消防人共済会 TEL 03-3503-1439  
詳しくはホームページをご覧ください <http://www.shouboujin.or.jp/>

消防団員・消防職員だからこそ加入できる

## 消防個人年金

積立金には予定利率(年1.25%) + 配当率が適用されます。

老後生活に向けた  
計画的な財産形成  
が可能です。

月払の場合、  
毎月一万円(ゆうちょ  
銀行は五千円)から  
ご加入いただけます。

給付金の受取りは、  
年金(6種類)又は  
一時金からご選択  
いただけます。

途中で脱退しても、  
積立金(脱退一時金)  
が受け取れます。

税制適格コースは  
個人年金保険料控除  
自由選択コースは  
一般の生命保険料控除  
の対象となります。

消防団員、消防職員  
の退団・退職後も  
継続できます。

(お問い合わせ先) 公益財団法人 日本消防協会 年金共済部

### 0120-658-494

平日 9:00~17:00